

令和5年度  
(2023年度)

博物館教育普及活動

沖縄県立博物館・美術館

令和5年度  
(2023年度)

沖縄県立博物館・美術館

# 博物館教育普及活動



あなたの沖縄に出会う



沖縄県立博物館・美術館  
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

## ごあいさつ

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中核施設であることも求められています。

コロナという未曾有の状況がひとまず落ち着き、それ以後の世界において博物館が社会にどのように向き合うか試行錯誤した一年でしたが、イベントでは多くの方々の参加があり、博物館の必要性を再確認しました。

そのような中、当館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分け推進してきました。一つ目は、学校連携モデル研究事業です。学校連携授業では、地域と博物館との連携のモデルをめざし、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図りました。また「出前授業等」では、学芸員と教職員、教育に関わる方々が連携した授業を、小学校・中学校・高等学校、さらには学校以外の多様な学びの場で実施することができました。

二つ目は博物館が広く県民へサービスを提供する事業です。まずは総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座を行いました。県民がボランティアとして参加することで、学芸員だけでなく幅広い方々に博物館活動へ関わってもらえることが出来ます。前年度はコロナによってボランティア活動が制限されていましたが、活動を活発にするべく、自主民具研修等を行い学校対応に備えました。

文化講座は、「沖縄における全基地撤去後の経済を考える」を皮切りに全12回実施しました。その他にも、学芸員講座や常設展示解説会とバックヤードツアーをそれぞれ12回実施しました。定員を超えた講座もあり大変好評でした。特に9月以降の学芸員講座は、つねに定員を超える状況となっており、モニターを場外に置いてエントランスでも講座をご視聴いただけるようにしました。また、「夏休み!こどもフェスタ」も一年ぶりに実施し、学芸員による子ども向けのイベント、全10教室を開催しました。

展覧会関連については「海を越える人々」を前期（企画展）・後期（特別展）に分けて開催しました。企画展（前期）「琉球と倭寇のもの語り」は9月より開催し、14世紀～16世紀にダイナミックに展開する琉球と倭寇の動きについて、考古資料を中心に展示しました。特別展（後期）「旧石器時代の人類—海を越えた最初の人々—」は12月より開催し、当館が行ってきた南城市サキタリ洞遺跡（ガンガラーの谷内）の調査成果と世界各地の旧石器に関連する資料により、私たち人類の生物学的特徴や生活文化の基盤がこの時期に形成されたことを紹介しました。それぞれ関連催事として、展示解説会や文化講座、座談会、映画上映会などをおこないました。

最後に令和5年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

令和6年3月

沖縄県立博物館・美術館  
館長 里井 洋一



# 博物館教育普及活動

## 目次

### ごあいさつ

#### I 博物館活動について……………1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）  
資料収集/保存管理・調査活動・展示活動・教育普及活動
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 令和5年度博物館教育普及活動について

#### II 学校連携……………8

- 1 学校団体受入要項
- 2 「民具体験学習」の概要
- 3 「民具体験学習」の実施状況
- 4 「来館学習プログラム」の概要
- 5 「来館学習プログラム」の実施状況
- 6 「出前授業等」の実施要項
- 7 「出前授業等」の実施状況

#### III 博物館体験学習教室……………20

- 1 体験学習教室の実施要項
- 2 体験学習教室の実施状況

#### IV 博物館文化講座……………23

- 1 文化講座の実施要項
- 2 文化講座の実施状況

#### V 博物館学芸員講座……………30

- 1 学芸員講座の実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

#### VI 博物館常設展示解説会……………37

- 1 展示解説会の実施要項
- 2 展示解説会の実施状況

#### VII バックヤードツアー……………38

- 1 バックヤードツアーの実施要項
- 2 バックヤードツアーの実施状況

#### VIII 夏休み！こどもフェスタ 2023……………39

- 1 夏休み！こどもフェスタの実施要項
- 2 夏休み！こどもフェスタ

#### IX ふれあい体験室……………43

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 ふれあい体験室の運営状況
- 4 ふれあい体験室の取組み

#### X ボランティア養成事業……………50

- 1 目的
- 2 ボランティアの活動内容
- 3 ボランティア養成講座実施要項  
<別紙資料> ボランティア養成事業  
<別紙資料> 令和5年度（2023）  
ボランティア通信

#### XI その他……………65

- 1 移動展
- 2 職場体験
- 3 教育普及資料の活用
- 4 ボランティアによる展示ガイド
- 5 特別展・企画展関連事業
- 6 常設展に関する取組み
- 7 新聞・雑誌等掲載一覧
- 8 印刷物一覧



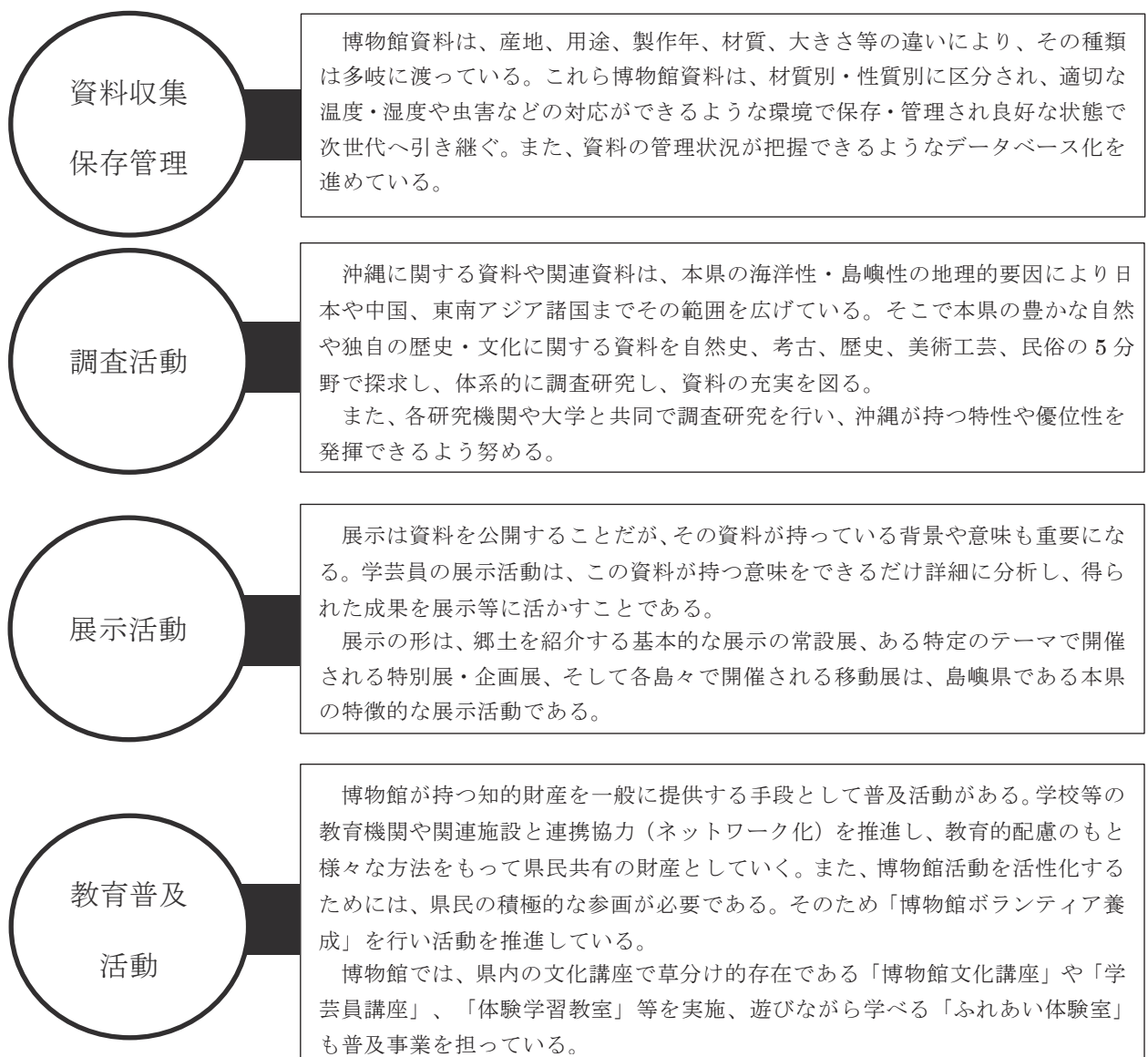
# I 博物館活動について

## 1 はじめに

博物館は、資料収集・保存管理、調査、展示、教育普及の四つを活動の車輪としている。それら車輪を機能させるために下記（１）～（４）に基づいた活動を構築している。

- （１）琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- （２）人類学をはじめ、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究活動。
- （３）沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信する活動。
- （４）博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

## 2 博物館活動（四つの車輪）



### 3 博物館の機能

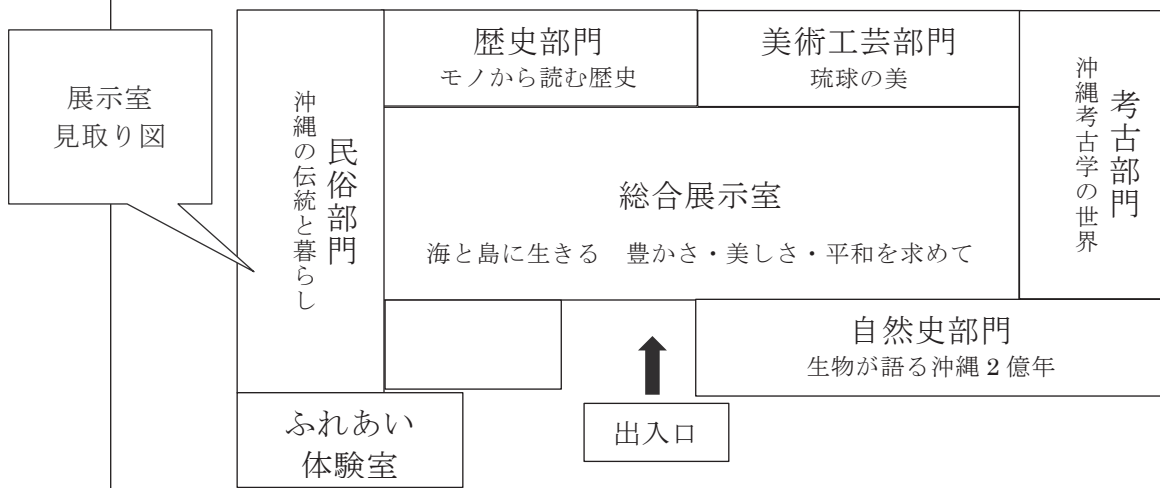
博物館は、様々な資料を収蔵している施設である。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していく。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・誰が・どこで・何のために作ったかを解明し、来館者へ紹介していく。資料は、展示や講座、論文、インターネットなど、いろいろな媒体を通して県民の知的財産として蓄積されていく。いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能がある。

#### 資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護する。

#### 資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展覧会が開催される。



#### 学習する場としての展示室・講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所である。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されている。また講演や体験を通して学習を行う講座室等がある。

#### 資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、学芸員研究室を中心に行われる。8分野の学芸員が各々または共同で、様々なテーマに取り組む。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展覧会や講演会などで公開される。また、博物館紀要論文はホームページで公開される。

#### 博物館施設を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋がある。

## 4 博物館の施設

### (1) 常設展示

「常設展示」のメインテーマは、「海と島に生きる～豊かさ、美しさ、平和を求めて～」である。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平和」を求め続けてきた歴史がある。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中に位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしている。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と、自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれている。

#### < 総合展示 >

展示テーマ

- ・「ニライカナイの彼方から」
- ・「シマの自然と暮らし」
- ・「海で結ばれた人々」
- ・「貝塚のムラから琉球王国へ」
- ・「王国の繁栄」
- ・「薩摩侵攻と琉球王国」
- ・「王国の衰亡」
- ・「沖縄の近代」
- ・「戦後の沖縄」
- ・「沖縄の今、そして未来へ」

「総合展示」は、上記の10のテーマで、琉球列島の生い立ちから現代までの約2億年にわたる沖縄の歴史をたどる。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介する。

中央に配した「シマの自然と暮らし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」・「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができる。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然や暮らしなどを調べることができる。

#### < 部門展示 >

「部門展示」は、総合展示を取り巻く展示である。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指す。

##### 自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示する。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができる。

##### 考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古代の人々の生活を追体験することができる。

##### 美術工芸部門展示

「琉球の美」をテーマに、1年に3回展示替えを行い、琉球王国時代の美術工芸品を紹介する。染織品、やきもの、漆芸品、絵画、彫刻、書跡などの資料をじっくり鑑賞することができる。

##### 歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていく。年数回展示替えをしつつ「那覇港」をテーマにした展示では、近世に制作された屏風絵を軸に、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解く。

##### 民俗部門展示

民俗部門展示のテーマは「沖縄の伝統と暮らし」である。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができる。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介する。



## (2) 屋外展示

高倉	高倉は、穀物を貯蔵する倉庫である。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされている。構造の違いにより、「沖縄式」と「奄美式」に分かれる。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、昭和 51 年（1976）に奄美から移築した。
民家	沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしている。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通す。また、母屋の正面にあるヒンプン（屏風）は、外部への目隠しとなる。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、開館中は靴を脱いでの内覧も可能となっている。
湧田窯	湧田窯は 17 世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴である。主に、屋根瓦を焼いた窯である。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料である。

## (3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、37 種類の体験キットが準備されている。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されている。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができる。

（詳細については「IX ふれあい体験室」を参照）

## (4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を 38 席設けた情報提供のための部屋である。博物館の収蔵資料の検索や、DVD やビデオの視聴ができる。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できる。

## (5) 講堂・講座室等

講 堂	講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができる。 212 席(車いす 2 人含む)の収容が可能。
講座室	100 名規模の講演会や会議などを開催できる。
実習室	体験学習や実技講習会などを開催できる。 30 名程度の収容が可能。

## (6) 救護室

来館中における軽度の気分不良の際には休憩をとることが可能である。（ベッド数 1 台）

## (7) 駐車場

一般車両 158 台（身障者用 4 台含）、バス 10 台が駐車可能である。特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意している。また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備している。

## (8) コインロッカー

使用後に 100 円が返金される、無料のコインロッカーを 204 個準備している。大きな荷物を持参する際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、手荷物を預けてからの入館となる。

## (9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っている。

- 観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けている。
- 講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしている。
- 館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしている。
- 車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置している。
- 道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設している。
- 高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備している。
- 案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としている。

## (10) 環境への配慮

### ■ 雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用している。

### ■ 夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより割高な昼間電力の増加を抑えている。

### ■ 総合的有害生物管理 (IPM : Integrated Pest Management) 施設

博物館・美術館では、有害生物 (虫・菌等) から文化財を保護するために IPM を行っている。IPM は、施設を取り巻く環境状況や有害生物の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫菌害を抑える管理方法である。

博物館の利用に際して、館内への飲み物、食べ物の持ち込みを禁止している。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮、ご協力をお願いしている。

## 5 令和5年度博物館教育普及活動について

博物館の教育普及活動は、大きく2つの事業に分けることができる。1つ目は、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する「学校連携事業」である。2つ目は、博物館が企画運営する「文化講座」等の各種講座、「常設展展示解説」等の各種解説会、「体験学習教室」、「ボランティア養成」等の事業である。それ以外にも、博物館を通して教育普及に関する全般的な活動にも取り組んでいる。

### (1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

〈今年度の取り組み〉

令和3年度(2021)から実施している「学校連携事業」において、民具体験、出前授業、来館学習などの館内学習プログラムの充実を図るほか、離島地域における出前授業を推進した。

※事業は令和7年度(2025)まで

### (2) 文化講座

文化講座では、博物館の展示内容と関連する各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の講演、シンポジウム、フィールドツアーを行った。県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。

### (3) 学芸員講座

学芸員講座では、博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の紹介等の講演・展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担った。

### (4) 展示解説会

展示解説会では、学芸員が博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかりやすく解説した。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、参加者が総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会とした。また、人数制限を行い実施した。

### (5) 体験学習教室

体験学習教室は沖縄の自然や歴史、文化に関わる体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会である。博物館の各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の展示や企画展等に関連した内容を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供した。また、募集人数を少なく設定し実施した。

### (6) バックヤードツアー

博物館に備えられている、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施した。普段は、入ることのできない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会とした。

### (7) 夏休み!子どもフェスタ2023

学芸員が、夏休み中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入のとなる内容を検討し、体験型の教室を開催した。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供した。

## (8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入している。主に館内催事・学校連携事業全般における来館者サービスやふれあい体験室での来館者サービスをサポートする人員として活動している。現在総勢 47 名（休止を除く継続活動申請者）の博物館ボランティアが登録している。また、収蔵資料整理ボランティアは 35 名が登録している。令和 5 年度はガイドボランティア養成講座を行い、2 名の博物館ボランティアが登録した。

## (9) その他

### ① 移動展

普段、当館に足を運ぶことができない離島や遠隔地の方々に、移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供した。今年度は、国頭村で開催した。

### ② 教育普及資料貸出

今年度は、教育機関 7 件に貸し出しを行った。

## II 学校連携

### 1 学校団体受入要項

(博物館施設の学校団体見学・体験学習・校内研修等の利用について)

#### (1) ねらい

- ①博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ②博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ③博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

#### (2) 博物館施設利用の申請から実施までの流れ【県内(小・中・高・特支)学校向け】

【児童・生徒向け】申請から実施までの流れなど

①館内の自由見学(見学サポート有り): 申請(様式2) → 相談・打合せ等 → 実施  
※博物館は少人数グループ(20名以下)対象

②館内の自由見学(見学サポート無し): 申請(様式2) → 来館

③民具体験(ボランティアサポート有り): 申請(様式4-①) → 下見・打合せ → 実施  
※15校程度受入予定(申請期限7月6日、申請多数の場合、抽選後に結果連絡)

④民具体験(ボランティアサポート無し): 申請(様式4-②) → 下見・打合せ → 実施

⑤夏季課題学習(主に高校)

⑥キャリア教育プログラム(職場見学、職場体験、インターンシップなど)

⑦出前授業、教育普及資料(民具、体験キット、アートカード等)の貸出 など

【学校職員向け】

⑧校内研修、自主研修、中堅研等教職員研修

⑨教員向け講座(8月第1週に開催予定)

⑩ボランティアによる展示解説ガイド

※申込み及び詳細については、以下の連絡先にお問い合わせください。

※その他のご要望についてもご相談に応じます。

①～④: 情報センター TEL: 098-941-1187 FAX: 098-941-3530

※申請書様式は当館HPよりダウンロード URL: <https://okimu.jp>

⑤、⑥: (一財)沖縄美ら島財団 教育普及担当 TEL: 098-941-8200 FAX: 098-941-2392

⑦～⑩: 沖縄県立博物館・美術館 博物館班 TEL: 098-851-5401 FAX: 098-941-3650

美術館班 TEL: 098-851-5402 FAX: 098-941-3730

## 2 「民具体験学習」の概要

### 令和5年度の民具体験学習プログラムの詳細

#### 【民具体験学習プログラム】ボランティアサポートあり

小学3年生社会科・及び総合的な学習の時間等で、博物館ボランティアのサポートを受けて「民具体験学習（昔の生活とくらし）」を行い、民具の着衣体験や展示室解説などを行う。4月に民具体験受入に係る実施要項を県内配布し、受入期日を指定した上で募集を行った。抽選で受入校を決定し、夏休み期間中に下見と打合せを行い、プログラムの作成を行った。昨年は新型コロナウイルス感染拡大によりボランティアサポートを中止していたが、今年度から再開した。

#### 【自主民具体験学習プログラム】教師主導による授業活用

展示解説マニュアルを活用して、博物館常設展示室における展示資料、民具体験学習における授業の指導作成・進行についての指導等を事前に行い、教職員の授業における活用を支援する取り組みを推進した。

## 3 「民具体験学習」の実施状況

項目	期日	実践校
民具体験学習プログラム 全9校	11月15日（水）	南城市立大里南小学校
	11月24日（金）	豊見城市立上田小学校
	12月1日（金）	西原町立西原小学校
	12月6日（水）	南城市立玉城小学校
	12月21日（木）	那覇市立小禄小学校
	1月10日（水）	南城市立大里南小学校
	1月12日（金）	那覇市立銘苺小学校
	1月17日（水）	那覇市立城岳小学校
	2月2日（金）	那覇市立小禄南小学校
自主民具体験学習プログラム 全11校	9月21日（木）	豊見城市立ゆたか小学校
	10月13日（金）	南風原町立翔南小学校
	10月27日（金）	南城市立大里北小学校
	11月8日（水）	糸満市立高嶺小学校
	11月10日（金）	豊見城市立座安小学校
	11月22日（水）	浦添市立内間小学校
	11月30日（木）	那覇市立古蔵小学校
	12月22日（金）	那覇市立天久小学校
	2月9日（金）	那覇市立宇栄原小学校
	2月14日（水）	那覇市立開南小学校
	3月8日（金）	那覇市立那覇小学校
	合計	<b>20校</b>

■ 3クラスの組み合わせ例

令和5年度 民具体験 学習プログラム

〇〇小学校 3学年

実施日程：〇月〇日（〇） 9:40～14:30

博物館到着時間：9:00 博物館出発時間：14:30 移動手段：バス〇台

児童数： 人 引率教師：4名 ヘルパー：なし 保護者：なし（有料・団体1人あたり420円）

担任 1組：〇 2組：〇 3組：〇

児童数 1組：〇名 2組：〇名 3組：〇名

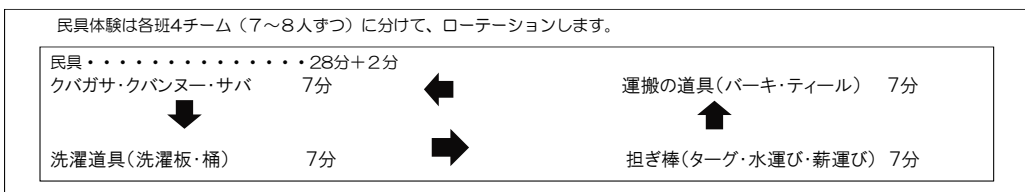
その他：各展示室の観覧の際、誘導が必要。

《社会科》 昔の道具について学ぶ。  
 《ねらい》 素材や扱い方を理解する。  
 《ポイント》 見てさわって体験する。

確認事項・・・①ワークシート：有り  
 ②持ち物：水筒 ③名札の準備：（クラスごとのカラーテープを学校で配布）  
 ※名札について、民具実演見学ローテーションのチームを記載  
 ※鉛筆以外の使用不可  
 ※水筒は持ち込み不可、博物館が保管カートを3つ用意。入館時は鉛筆と探検バッグのみ。

プログラム タイムスケジュール

9時		10時											11時																	
9:00		15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35
1組	博物館・美術館到着	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分											移動	民俗部門 25分					移動	自然史展示部門 30分					まとめ					
		50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25									
		自然史展示部門 30分											移動	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分					移動	民俗部門 25分										
2組		民俗部門 30分											移動	自然史展示部門 25分					移動	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分										
		50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25									
		民俗部門 30分											移動	自然史展示部門 25分					移動	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分										
3組		民俗部門 30分											移動	民俗部門 25分					移動	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分										
		50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25									
		民俗部門 30分											移動	民俗部門 25分					移動	民具 (屋外実演) ※雨天時・雨端 30分										



：磨漕・・・各1名

1組	-	2組	-	3組	-
----	---	----	---	----	---

：民具体験サポート・・・各2～4名

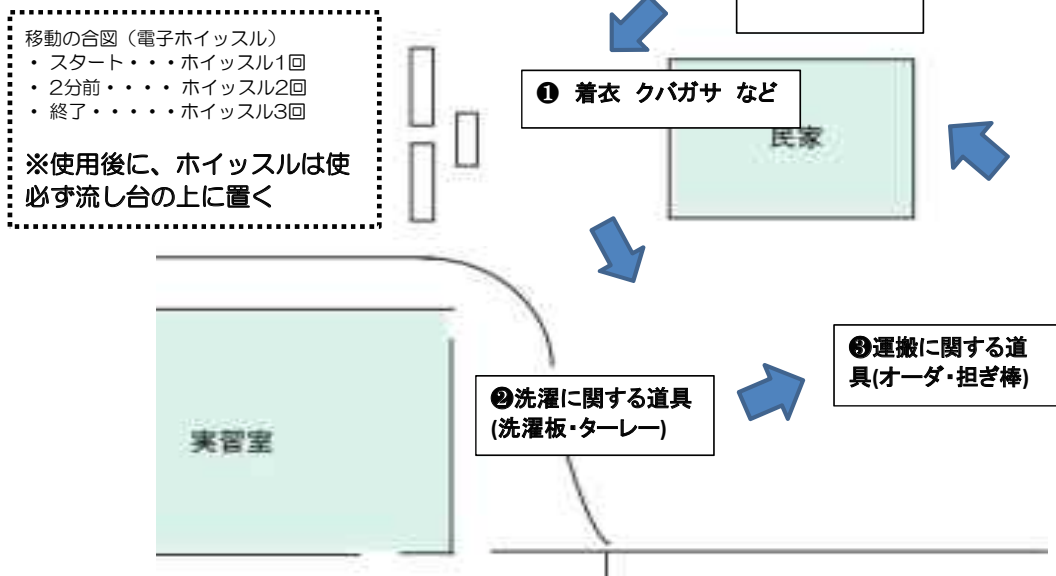
※各グループ4グループに分かれ、6分で交代

着衣の道具 (クバガサ・クバンヌー・サバ)	-
洗濯道具(洗濯板・桶)	-
担ぎ棒 (ターグ・水運び・薪運び)	-
運搬の道具 (パーキ・ティール)	-

## 民具体験・配置図

- 民具体験実施日：1月 17日 (水)
- ・ (城岳) 小学校、(3) クラス、児童 (30から32) 名
  - ・ 民具体験 (4) 種類 /
  - ・ 各コーナー (7) 分+移動2分 合計30分
  - ・ 1グループ (6から7) 名

### ■ 晴れの日



### ■ 雨の日





【民具体験学習プログラム】ボランティアによる実演・解説実施の様子



大里南小学校  
着衣体験の解説・実演の様子。



上田小学校  
洗濯の道具解説・実演の様子。



西原小学校  
着衣体験の解説・実演の様子。



玉城小学校  
運搬の道具解説・実演の様子。



小禄小学校  
運搬の道具解説・実演の様子。



銘苅小学校  
運搬の道具解説・実演の様子。

【自主民具体験学習プログラム】教職員による事業活用の様子



ゆたか小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。



翔南小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。



大里北小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。



高嶺小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。



座安小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。



内田小学校  
教職員による自主民具体験学習の様子。

#### 4 「来館学習プログラム」の概要

##### 令和5年度の来館学習プログラムの詳細

本取組については教育課程の一環として、博物館を学校側が利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行った。生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設、職員、博物館学芸員の支援体制を考慮して館内で行う来館学習プログラム等を実施した。今年度は多様な来館学習の要望があったため、その他団体等について※で表記し掲載した。

※来館学習プログラム（学校連携事業、令和6年度（2024）まで）

#### 5 「来館学習プログラム」の実施状況

	期日	担当学芸員・職員	実施校	人数
1	5月12日（金）	宇佐 美賢（班長） 平川 信幸（教育普及）	沖縄県立那覇国際高等学校	11名
2	7月7日（金）	平川 信幸（教育普及） 大城 沙織（民俗）	沖縄国際大学	21名
3	7月26日（水）	宇佐 美賢（班長） 新山 颯大（地質）	琉球大学理学部地学系	15名
4	8月10日（木）	玉城 早苗（美術館教育普及） 平川 信幸（教育普及）	※おきなわ県民カレッジ 広域学習サービス講座 那覇教育事務所	24名
5	8月9日（水）	宮城 修（歴史） 崎原 恭子（歴史）	※ウチナージュニアスタディー事業	29名
6	8月16日（水）	宇佐美 賢（班長） 平川 信幸（教育普及）	松川小学校	3名
7	8月17日（水）	菊川 章（自然史）	興南高等学校	3名
8	9月28日（木）	平川 信幸（教育普及）	沖縄県立泊高等学校	20名
9	10月31日（火）	菊川 章（生物） 新山 颯大（地質）	陽明高等学校	26名
10	11月2日（木）	里井 洋一（館長） 宇佐美 賢（班長） 菊川 章（生物） 山崎 真治（人類） 宮城 修（歴史） 崎原 恭子（歴史） 澤浦 亮平（人類） 篠原 あかね（美術工芸） 伊禮 拓郎（美術工芸） 新山 颯大（地質） 大城 沙織（民俗） 平川 信幸（教育普及）	※自治研修所	30名
総計				182名

## 6 「出前授業等」の実施要項

### (1) 趣旨

博物館の持つ資源（もの、情報、人）を、出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

### (2) 内容

①学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。

②授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

### (3) 対象

県内公立学校及び私立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）

※クラス単位もしくは学年単位

### (4) 実施時間

1～2時間程度（調整可）

### (5) 実施場所

当該校

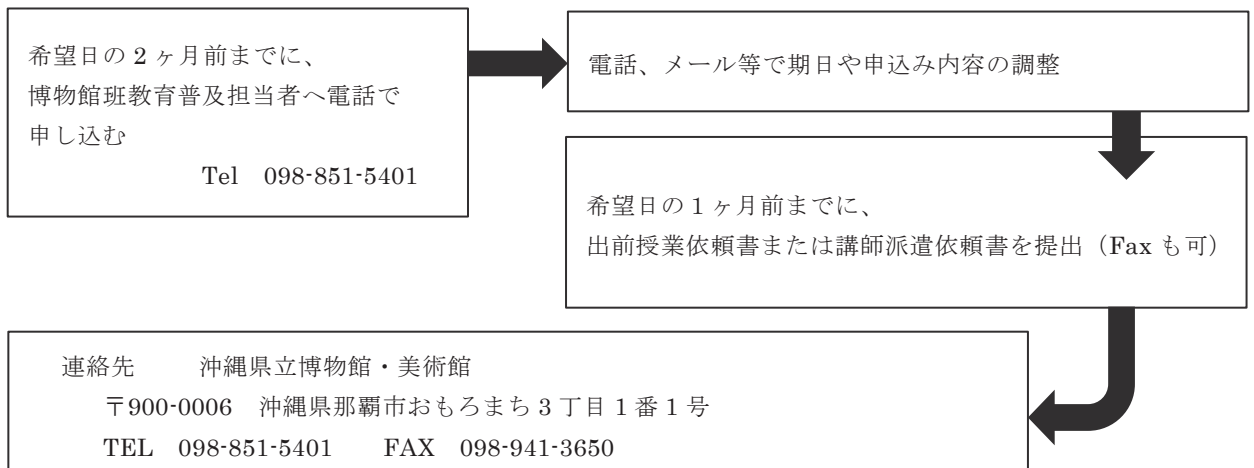
### (6) 申し込み方法

※別紙参照

### (7) その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、沖縄県立博物館・美術館で負担する。

### (8) 出前授業等の申し込み方法と連絡先



## 出前事業等の申し込み方法と連絡先

### ○申し込み方法

希望日の2ヶ月前までに、  
教育普及担当者へ電話で申し込む      TEL098-851-5401



電話、メール等で期日や申込み内容の調整



希望日の1ヶ月前までに、  
出前授業依頼書または講師派遣依頼書を提出  
(Fax、E-mailも可)

### ○連絡先

沖縄県立博物館・美術館  
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号  
TEL 098-851-5401      FAX 098-941-3650

教育普及担当

※事業等の関係からご希望の日時に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

(9) 学芸員紹介

	担当分野		氏名
博物館班	自然史	生物	菊川 章
		地質・地学	新山 颯大 宇佐美 賢
		人類	山崎 真治 澤浦 亮平
	美術工芸		篠原 あかね
			園原 謙
			與那嶺 一子
			伊禮 拓郎
	歴史	古琉球・近世	崎原 恭子
		近現代	宮城 修
	考古		山本 正昭
	民俗		大城 沙織
			大湾 ゆかり
	教育普及		平川 信幸

○沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館の持つ資源（もの、情報）を活用し、児童・生徒の学習を支援する。

※校内研修等で博物館活用について、レクチャーする。

※「講師派遣依頼書」は、ホームページでダウンロードして使用可能。

7 「出前授業等」の実施状況

	期 日	担当学芸員	実施校及び施設
1	6月16日（金）	宮城 修（歴史）	本部町立本部中学校
2	6月23日（金）	園原 謙（美術工芸）	国頭村立国頭中学校
3	7月21日（金）	大城 沙織（民俗）	珊瑚舎スコーレ
4	7月24日（月）	菊川 章（生物）	那覇市教育委員会教育相談課
5	7月25日（火）	菊川 章（生物）	アメラジアンスクール イン オキナワ
6	9月29日（金）	大城 沙織（民俗）	沖縄県立那覇みらい支援学校
7	9月30日（土）	宇佐美 賢（班長）	南城市立大里北小学校
8	10月4日（水）	菊川 章（生物）	沖縄県立那覇みらい支援学校
9	10月10日（火）	伊禮 拓郎（美術工芸）	宜野湾市立宜野湾小学校
10	10月17日（火）	宮城 修（歴史） 崎原 恭子（歴史）	石垣市立宮良小学校

11	11月8日(水)	新山 颯大(地質)	久米島町立久米小学校
12	11月10日(金)	澤浦 亮平(人類)	沖縄県立向陽高等学校
13	11月16日(木)	菊川 章(生物)	沖縄県立中部農林高等学校
14	12月6日(水)	新山 颯大(地質)	沖縄県立中部農林高等学校
15	1月14日(日)	山本 正昭(考古)	久米島町立久米島博物館 (久米島町教育委員会)
16	2月1日(木)	大城 沙織(民俗)	西原町立坂田小学校
17	2月6日(火) 2月7日(水)	大城 沙織(民俗)	沖縄市立泡瀬小学校

沖縄県立向陽高等学校(人類)



中部農林高等学校①(生物)



中部農林高等学校②(地質)



坂田小学校(民俗)





### Ⅲ 博物館体験学習教室

#### 1 体験学習教室の実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

(3) 受講方法

1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

※抽選の場合、当選者には、事前に当選の通知連絡を行う。

(4) 体験学習に係る役割

前日まで		当日運営	
①事業起案及び講師依頼	博教育普及担当	①受付及び材料費徴収	指定管理者
②マスコミ各社への取材依頼	指定管理者	②開講式 司会	〃
③受講生受付	〃	③講師紹介	〃
④講師事前打ち合わせ	○博物館教育普及担当 ○指定管理者	④講座の進行	○博物館教育普及担当 ○指定管理者 ○ボランティア
⑤説明資料作成		⑤材料等の準備及び配布	
⑥材料・道具等の諸準備		⑥記念撮影	
⑦ボランティア事前学習 ・準備作業調整		⑦報償費支払い事務	

#### 2 体験学習教室の実施状況

期日	タイトル	講師名	内容	参加者
7月23日(日)	第1回 ウチナーの民話上映会	沖縄県立南部農 林高校生活デザ イン科	デジタルミュージアム 推進事業	29
8月10日(木)	キリンの骨を並べてみ よう!	郡司 芽久(東洋 大学助教)	「みんなの進化展」関 連イベント	18
10月28日(土)	第2回 ウチナーの民話上映会	沖縄県立南部農 林高校生活デザ イン科	デジタルミュージアム 推進事業	39
12月23日(土)	お菓子を作りながら旧 石器時代を学んで食べ よう!	下島 綾美(おか し作り考古学者)	「旧石器時代の人類」 展関連催事	8
1月7日(日)	体験実食学習 サキタ リ洞の味	澤浦 亮平(人類 担当)	「旧石器時代の人類」 展関連催事	9

「みんなの進化展」関連催事 「キリンの骨を並べてみよう！」

日時：8月10日（木）

講師：郡司 芽久（東洋大学助教）

内容：前半は、キリンの全身の骨を観察しながら、ヒトや他の動物と似ているところ、違うところを探った。

後半は、参加者のみんなで協力して、骨と骨とのつながりを考えながらキリンの骨をエントランスホールの床いっばいに並べ、キリンの骨の専門家・郡司芽久先生がキリンの骨の不思議について解説した。



「旧石器時代の人類」展関連催事 「お菓子を作りながら旧石器時代を学んで食べよう！」

日時：12月23日（土）

講師：下島 綾美（おかし作り考古学者）

内容：旧石器時代の動物の骨をじっくり観察・真似して、自分だけの「ほねっこどうぶつクッキー」を作るワークショップを実施。

お菓子を作りながら旧石器時代の動物の種類や特徴を、楽しく美味しく学んだ。



「旧石器時代の人類」展関連催事 「体験実食学習 サキタリ洞の味」

日時：1月7日（土）

講師：澤浦 亮平（人類担当）

内容：前半は旧石器時代人が食べていたものが残されていたサキタリ洞遺跡（ガンガラーの谷内）について解説。

後半はこの体験教室では、旧石器時代の人々が好んで食したモクズガニを実際に調理し、みんなで旧石器時代に思いを馳せながら食した。



令和5年度 第1回ウチナーの民話上映会

日時：7月23日（日）

講師：沖縄県立南部農林高等学校 生活デザイン科 生徒4名

第1部 南部農林高等学校の生徒らによる民話紙芝居

第2部 デジタルミュージアム動画コンテンツの上映

（標準と話者のバージョンで上映）

上映民話：①「嫁と姑 ～猫と鼠～」

②「蠅と雀 ～はえが手をするわけ～」

③「雨蛙不孝」

④「犬の足」（約2分）



デジタルミュージアム推進事業  
令和5年度

### 第1回 ウチナーの民話上映会

デジタル民話  
「なみちとキジナチ」を上映します！  
高校生による民話の活動報告と手作り紙芝居の披露及び平成29年度から令和5年度に制作した民話のデジタルコンテンツを4本上映します。

2023. **7.23** 日

会場 博物館講座室  
定員 当日先着(定員80名)

入場券 15:00～16:00  
【開場 14:30】

お問い合わせ 098-941-8200  
〒900-0005  
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1  
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

実施団体 沖縄県立博物館 企画室  
協賛団体 沖縄県立博物館 企画室  
【開催日時】令和5年7月23日(日)15:00～16:00  
【開催場所】博物館(那覇市おもろまち3-1-1)

第2回ウチナーの民話上映会

日時：10月28日（土）

講師：沖縄県立南部農林高等学校 生活デザイン科 生徒8名

第1部 南部農林高等学校の生徒らによる研究発表・民話紙芝居

第2部 デジタルミュージアム動画コンテンツの上映

（標準と話者のバージョンで上映）

上映民話：①「塩が一番うまい」

②「蛇婿入り」

③「トーカチ由来 ～子どもの寿命～」

④「感冒の神様」



デジタルミュージアム推進事業  
令和5年度

### 第2回 ウチナーの民話上映会

デジタル民話  
「おにんず」を上映します！  
南部農林高等学校生活デザイン科生徒による手作り紙芝居の披露と民話のデジタルコンテンツを4本上映します。

2023. **10.28** 土

会場 博物館講座室  
定員 当日先着(定員80名)

入場券 14:00～15:00  
【開場 13:30】

お問い合わせ 098-941-8200  
〒900-0005  
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1  
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

実施団体 沖縄県立博物館 企画室  
協賛団体 沖縄県立博物館 企画室  
【開催日時】令和5年10月28日(土)14:00～15:00  
【開催場所】博物館(那覇市おもろまち3-1-1)

## IV 博物館文化講座

### 1 文化講座の実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

#### (4) 受講方法

当日先着 200 名

### 2 文化講座の実施状況

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
549	4月15日（土）	沖縄における全基地撤去後の経済を考える	友知 政樹	200	48
550	5月20日（土）	フィールドツアー 伊江島の貝塚と遺跡をめぐる旅	玉榮 飛道	20	21
551	6月17日（土）	ある首里士族の400年～田名家の人物と伝来資料群	高良 倉吉 田名 真之	200	160
552	7月15日（土）	琉球の染織に見る、周辺地域との交遊—その模様・技法・素材から探る	小山 弓弦葉	200	70
553	8月19日（土）	ダーウィンの夏休み	鈴木 紀之	200	40
554	9月30日（土）	倭寇図巻を読む	須田 牧子	200	120
555	10月8日（日）	シンポジウム「琉球の海 倭寇の海」	荒木 和憲 黒嶋 敏 池谷 初恵 村木 二郎	200	193
556	11月18日（土）	沖縄の美ら星 ～豊かな星文化にふれる～	宮地 竹史	200	152
557	12月16日（土）	骨学セミナー沖縄版	奈良 貴史 佐藤 孝雄 澤田 純明	200	150
558	1月20日（土）	シンポジウム 「新しい」港川人の時代	海部 陽介 藤田 祐樹 水野 文月	200	182
559	2月17日（土）	国宝に指定された尚家継承資料	外間 政明	200	100
560	3月16日（土）	キジムナーについて考える	赤嶺 政信	200	103

## 第 549 回 文化講座

演題：「沖縄における全基地撤去後の経済を考える」

講師：友知 政樹（沖縄国際大学経済学部教授、琉球民族独立総合研究学会（ACSILs）共同代表）

内容：沖縄から全基地（全ての米軍基地及び自衛隊基地）を撤去したら、沖縄経済はどうなるのか？経済的に成り立つの？このような疑問のもと、沖縄経済に関する推計をおこなったところ、全基地撤去後、およそ 4 兆円の直接経済効果がもたらされる結果を得た。本講座では基地撤去後の沖縄の経済について考えた。



## 第 550 回 文化講座

演題：「フィールドツアー 伊江島の貝塚と遺跡をめぐる旅」

講師：玉榮 飛道（伊江村教育委員会）

内容：伊江島では先史時代の遺跡が 29 ヶ所確認されており、沖縄内で初めて九州の弥生土器が見つかった具志原貝塚などがある。今回のフィールドツアーでは伊江島の貝塚・遺跡を巡り、豊かなサンゴ礁の魚介類に恵まれた伊江島の遺跡の特徴や発掘調査の成果について解説した。



## 第 551 回 文化講座

演題：「ある首里士族の 400 年 ～田名家の人物と伝来資料群」

講師：高良 倉吉（琉球大学名誉教授）

田名 真之（沖縄県立博物館・美術館 元館長）

内容：本講座では歴史部門展示室での特集展に関連し、重要文化財「田名家文書」（辞令書 32 通、麻姓田名家家譜 1 冊）を始め、貴重な資料群を伝える麻姓・田名家の歴史とその資料群の価値について、琉球史研究の第一人者である高良倉吉氏と田名真之氏が解説した。



## 第 552 回 文化講座

演題：「琉球の染織に見る、周辺地域との交遊—その模様・技法・素材から探る」

講師：小山 弓弦葉（東京国立博物館）

内容：紅型のデザインは日本の友禅染の影響を受けているとされているが、実際には小袖模様雛形本や、京都の紅板締めデザインなど、さまざまな情報が好奇心旺盛に受容されている。また、型紙の用い方に注目すると、実は、古く 16 世紀後半頃に、日本と琉球が共通した技法を用いていた可能性がうかがえる。本講座では、琉球国時代の染織文化を通して、この時代における琉球と周辺地域との多様な交遊について説明した。



## 第 553 回 文化講座

演題：「ダーウィンの夏休み」

講師：鈴木 紀之（高知大学農林海洋科学部 准教授）

内容：イギリスで生まれ育ったチャールズ・ダーウィンは自然淘汰による進化という理論を考えついた傍ら、彼は昆虫や動物、そして植物を対象にして、さまざまな実験を行った。それらの実験は身近な生き物を対象にし、オリジナリティあるアイデアにあふれ、情熱のままに突き進み、まるで夏休みの自由研究のようであった。  
本講座では、こうしたダーウィンの知られざる一面を通して、その人物像と進化論の真価に迫った。



## 第 554 回 文化講座

演題：「倭寇図巻を読む」

講師：須田 牧子（東京大学史料編纂所 准教授）

内容：東京大学史料編纂所が所蔵する『倭寇図巻』は、海の向こうからやってきて、掠奪放火等の狼藉を行った倭寇を、官軍が迎え撃ち勝利したさまを描いた絵巻である。倭寇を描いた唯一の彩色画として、教科書にもしばしば掲載され、倭寇のイメージを形作ってきた。  
本講座では、『倭寇図巻』が描く物語とその背景とを、赤外線撮影の成果も含めた最新の研究をもとに読み解いた。



## 第 555 回 文化講座

演題：令和 5 年度博物館企画展開催記念シンポジウム「琉球の海 倭寇の海」

講師：荒木 和憲（九州大学大学院人文科学研究院 准教授）

黒嶋 敏（東京大学史料編纂所 准教授）

池谷 初恵（伊豆の国市教育委員会 文化財調査員）

村木 二郎（国立歴史民俗博物館准 准教授）

内容：令和 5 年度企画展『海を越える人々（前期） 琉球と倭寇のもの語り』の開催を記念して沖縄県外から 4 名の研究者を招き、中世の東アジア海域について歴史学と考古学の分野からその実態に迫っていくシンポジウムを開催した。

東アジアの中において琉球、日本、中国更には東南アジアとの海を越えた関係について、また遺跡から出土する遺物から対外交易の実態がどのように読み解けるのかなど、4 本の研究報告と討論を行った。



## 第 556 回 文化講座

演題：「沖縄の美ら星 ～豊かな星文化にふれる～」

講師：宮地 竹史（美ら星ガイド・アドバイザー）

内容：沖縄の島々は日本の最南西端に位置し、南十字星や 21 個の 1 等星など、他県では見ることの出来ない美しい星空が広がっている。そうした中、沖縄ならではの星名もたくさん残っており、また、暮らしと関わる星の民話や物語、伝承があり、古謡にも歌われてきた。本講座では沖縄で見られる素晴らしい星空を紹介しながら、島々に残る豊かな星の文化について紹介した。





## 第 557 回 文化講座

演題：「旧石器時代の人類」展 文化講座 1 「骨学セミナー沖縄版」

講師：奈良 貴史（新潟医療福祉大学 教授）

佐藤 孝雄（慶應義塾大学 教授）

澤田 純明（新潟医療福祉大学 教授）

内容：遺跡から出土する骨の研究は先史人類学において重要な役割を果たす。本講座では、新潟で毎年開催され好評を博している骨学セミナーの中心メンバーと動物考古学の分野で幅広く研究を進めてこられた研究者を招き、どのようにして骨から人類史を紐解くのかわかりやすく解説した。



2023.  
12.16<sup>土</sup>  
14:00~16:30  
(開場 13:30)

■ 入場料  
当日券 (前売 200 円)  
学生券 (前売 100 円)

■ プログラム  
14:30 開会挨拶  
14:35 古道具の骨の心臓の解剖学から学ぶこと 奈良 貴史 氏  
14:50 古道具の動物考古学・縄文時代の研究 佐藤 孝雄 氏  
15:15 休憩  
15:45 3Dリアリタムアル人骨の顔面と頭蓋骨 (ホモ・サピエンス) の解剖 奈良 貴史 氏  
16:30 終了

【開催場所】 1F 101-101 室 (新潟医療福祉大学 3F 1F)  
【お申し込み】 海部 陽介 (新潟医療福祉大学 3F 1F)  
【お申し込み】 海部 陽介 (新潟医療福祉大学 3F 1F)

## 第 558 回 文化講座

演題：「旧石器時代の人類」展 文化講座 2 「シンポジウム『新しい』港川人の時代」

講師：海部 陽介（東京大学総合研究博物館 教授）

藤田 祐樹（国立科学博物館 研究主幹）

水野 文月（東邦大学医学部医学科 講師）

内容：港川人は半世紀以上前に発見されて以後、長くこの時代を代表する化石人類であった。この 10 数年間の調査研究によって化石人類の新資料の発見に加え、港川人を取り巻くさまざまな事柄が解明されてきた。シンポジウムではそうした最新の調査研究成果を生み出す研究者が登場し、「新しい」港川人の時代について講演した。



2024.  
1.20<sup>土</sup>  
14:00~17:00  
(開場 13:30)

■ 入場料  
当日券 (前売 200 円)  
学生券 (前売 100 円)

■ プログラム  
14:30 開会  
14:35 「新しい」港川人 1 骨の年代 (藤田 祐樹) 藤田 祐樹 氏  
14:45 「新しい」港川人 2 骨の年代 (水野 文月) 水野 文月 氏  
15:15 休憩  
15:45 3Dリアリタムアル人骨の顔面と頭蓋骨 (ホモ・サピエンス) の解剖 奈良 貴史 氏  
16:30 終了

【開催場所】 1F 101-101 室 (新潟医療福祉大学 3F 1F)  
【お申し込み】 海部 陽介 (新潟医療福祉大学 3F 1F)  
【お申し込み】 海部 陽介 (新潟医療福祉大学 3F 1F)

## 第 559 回 文化講座

演題：「国宝に指定された尚家継承資料」

講師：外間 政明 氏（那覇市文化財課 担当副参事）

内容：琉球国王家である尚家第 22 代当主尚裕氏より、同家に伝えられた琉球王国時代の古文書や美術工芸品が、1995 年、1996 年に那覇市に寄贈され、尚家資料の調査等が行われ、その後、2016 年には「琉球国王尚家関係資料」の名称で県内初の国宝に指定された。

国宝に指定された尚家資料は、かつて沖縄から海を渡り、東京の地で保管されていたものである。どのような、いきさつで東京に運ばれ、保管されたのか、国宝指定の移動や保管にまつわる経緯を語った。



2024. 2.17 (土)  
14:00~16:00 (開場 13:30)  
会場：沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂  
入場料：無料 (200 名)  
TEL: 941-8200  
予約：沖縄県観光文化センター 3-1-1

【講師】 外間 政明 (ほかま まさあき)  
那覇市文化財課 担当副参事。琉球王国時代の古文書や美術工芸品が、1995 年、1996 年に那覇市に寄贈され、尚家資料の調査等が行われ、その後、2016 年には「琉球国王尚家関係資料」の名称で県内初の国宝に指定された。この資料は、かつて沖縄から海を渡り、東京の地で保管されていたものである。どのような、いきさつで東京に運ばれ、保管されたのか、国宝指定の移動や保管にまつわる経緯を語った。

## 第 560 回 文化講座

演題：「キジムナーについて考える」

講師：赤嶺 政信 氏（琉球大学名誉教授）

内容：沖縄の代表的な妖怪であるキジムナーに関する伝承に基づき、キジムナー伝説の背後にある人々の心意について考えた。今日では、すっかりマスコット化した感のあるキジムナーだが、実はキジムナーは自分を裏切った人間に対して囲炉裏の燃えかすで目を突き刺すなど、とても残忍な仕返しをする性格も持ち合わせている。そのようなキジムナーの負の側面が見える話から、われわれは何を読み解くことができるのかを解説した。



2024. 3.16 (土)  
14:00~16:00 (開場 13:30)  
会場：沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂  
入場料：無料 (200 名)  
TEL: 941-8200  
予約：沖縄県観光文化センター 3-1-1

【講師】 赤嶺 政信 (あかみね まさのぶ)  
琉球大学名誉教授。琉球の代表的な妖怪であるキジムナーに関する伝承に基づき、キジムナー伝説の背後にある人々の心意について考えた。今日では、すっかりマスコット化した感のあるキジムナーだが、実はキジムナーは自分を裏切った人間に対して囲炉裏の燃えかすで目を突き刺すなど、とても残忍な仕返しをする性格も持ち合わせている。そのようなキジムナーの負の側面が見える話から、われわれは何を読み解くことができるのかを解説した。

## V 博物館学芸員講座

### 1 学芸員講座の実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間（講座により変更あり）

場 所：博物館講座室を基本とする

#### (4) 受講方法

当日先着80名

### 2 学芸員講座の実施状況

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
1	5月13日（土）	ネアンデルタールとクロマニヨン	山崎 真治	80	58
2	6月10日（土）	琉球の染め・織り・繡い	篠原 あかね	80	61
3	7月8日（土）	展示公開 おもろさうし・混効験集・田名家文書の紹介	崎原 恭子	80	31
4	8月12日（土）	みんなの進化論入門 ～進化の舞台 琉球列島～	菊川 章	80	33
5	9月2日（土）	倭寇関連の史跡を読み解く 一企画展「琉球と倭寇のもの語り」開催に向けて一	山本 正昭	80	80
6	9月9日（土）	ものから読み解く沖縄の歴史 一美術工芸的博物館案内一	平川 信幸	200	79
7	10月14日（土）	ジオツアー 沖縄の地層とゆんたくしようよ！ 一陸に残る泥の海とサンゴの海の跡一	新山 颯大 宇佐美 賢	20	11
8	11月11日（土）	首里城を救った男たち 伊東忠太と鎌倉芳太郎 一共同研究開始から100年一	伊禮 拓郎	80	96
9	12月8日（土）	沖縄の生活における水と信仰	大城 沙織	80	93
10	1月13日（土）	沖縄の石ころと島人の生活 ～島々の地形・地質から考える～	宇佐美 賢	80	90
11	2月10日（土）	「旧石器時代の人類」展をもっと楽しむ	澤浦 亮平	80	73
12	3月9日（土）	戦後沖縄の教育をふり返る 1945-1972	宮城 修	80	60

## 第1回 学芸員講座

演題：国際博物館の日 2023 記念事業「ネアンデルタールとクロマニヨン」

講師：山崎 真治（人類担当学芸員）

内容：クロマニヨン人は私たちと同じホモ・サピエンスの仲間で、現代人の直接の祖先になったと考えられている。一方、ネアンデルタール人は約5万年前を境に絶滅し、現代人とは直接のつながりを持たない人類集団と考えられてきたが、近年ではわずかながら現代人にもネアンデルタール人由来の遺伝子が受け継がれていることがわかってきた。

本講座では、ネアンデルタールとクロマニヨンの発見にまつわるエピソードをたどるとともに、彼らのくらしぶりや現代人との関わりについてわかりやすく解説した。



## 第2回 学芸員講座

演題：「琉球の染め・織り・繡い」

講師：篠原 あかね（美術工芸担当学芸員）

内容：琉球・沖縄では、豊かで美しい染織文化が育まれた。講座では、「染め」「織り」「繡い（刺繡）」のテーマに分けた。「染め」では紅型の模様のおもしろさとともに、同一模様に関わる最新の研究成果を報告した。「織り」では芭蕉布が織りあがるまでの工程を写真で詳しく解説し、繊維の美しさの秘密を探った。「繡い（刺繡）」では、琉球古刺繡の復元を通じて得られた成果を元に、刺繡の衣裳を紹介した。



### 第3回 学芸員講座

演題：「展示公開 おもろさうし・混効験集・田名家文書の紹介」

講師：崎原 恭子（歴史担当学芸員）

内容：2023年は、琉球王国時代の16～19世紀に作られた「おもろさうし」・「混効験集」・「田名家文書」の琉球政府特別重要文化財指定から65年、国の重要文化財指定から50年の節目の年である。講座の前半では、各資料の特徴と沖縄の文化財保護行政のあゆみについて紹介し、後半では歴史部門展示室にて「おもろさうし」・「混効験集」・「田名家文書」の資料の解説を行った。



### 第4回 学芸員講座

演題：「みんなの進化論入門 ～進化の舞台琉球列島～」

講師：菊川 章（生物担当学芸員）

内容：企画展『みんなの進化展 ～命はつながっている～』の担当者が「進化」について分かりやすく解説した。講座のテーマは「みんなの進化展」第5章で取り上げた「進化の舞台 琉球列島」。琉球列島には、世界が注目する「進化」のエピソードが多くある。琉球列島で起こった「進化」について、基礎からじっくり深掘する。「進化」の視点を養い、琉球列島の自然の価値を改めて実感できるような講座となった。



## 第5回 学芸員講座

演題：「倭寇関連の史跡を読み解く ―企画展『琉球と倭寇のもの語り』開催に向けて―」

講師：山本 正昭（考古担当学芸員）

内容：14世紀後半において中国の明朝は大陸沿岸部において城を築き、倭寇の取締りを行った。16世紀には中国大陸沿岸部の集落が城壁を立ち上げて、倭寇からの略奪行為を防ぐといったことが行われた。また、この時期には琉球王国では海防のための砲台場が築かれていくように倭寇に対抗した史跡を現在も各地で見ることができる。今回はその一部を紹介し、倭寇の姿について迫った。



## 第6回 学芸員講座

演題：「ものから読み解く沖縄の歴史 ―美術工芸的博物館案内―」

講師：平川 信幸（教育普及担当学芸員）

内容：琉球絵画や書、紅型や芭蕉布などの染織、琉球漆器など沖縄県には琉球王国から続く多様な美術工芸品がある。一言で琉球王国といっても、尚巴志が三山を統一した1492年から1879年の王国滅亡まで387年の歴史がある。琉球の美術工芸は歴史的な事件の影響を受けながら、独自の表現として確立していく。本講座では、琉球・沖縄の美術工芸について、国王の業績を示した石碑「円覚寺禅寺記」や「神扇」に刻まれた日輪双鳳文の変遷や、「役人正装」で復元された染織品から琉球の美術工芸の歴史的な流れ、文化的な背景をひもといた。



## 第7回 学芸員講座

演題：「ジオツアー 沖縄の地層とゆんたくしようよ！ ー陸に残る泥の海とサンゴの海の跡ー」

講師：新山 颯大（地質担当学芸員）

宇佐美 賢（博物館班班長）

内容：沖縄の浅い海には、サンゴ礁が広がっている。しかし、沖縄島の陸地を形作る地層には、今とは全く違う過去の沖縄の海の姿が残されている。今回のツアーでは、沖縄の地層の中でも泥の海とサンゴの海が記録された地層を巡りながら、沖縄島南部の地質学的な歴史を読み解いた。



## 第8回 学芸員講座

演題：「首里城を救った男たち 伊東忠太と鎌倉芳太郎 ー共同研究開始から100年ー」

講師：伊禮 拓郎（美術工芸担当学芸員）

内容：今からちょうど100年前の1923年、後に沖縄文化研究に大きな足跡を残す伊東忠太と鎌倉芳太郎が出会い共同研究が始まった。その翌年1924年に首里城の取り壊しを阻止した二人は、その功績が認められ尚家関係者から首里城をはじめとした王家ゆかりの場所やものの調査許可をもらい、以降本格的な調査が始まった。本講座では、こうした調査開始の背景を新聞などの資料から得られた知見をもとに分かりやすく説明した。



## 第9回 学芸員講座

演題：「沖縄の生活における水と信仰」

講師：大城 沙織（民俗担当学芸員）

内容：水は命を支え、生活に欠かせないものである。しかし沖縄はその島嶼性により古くから水の確保に苦勞が絶えない地域であった。上水道普及以前の沖縄において、生活の水の確保にはどのような工夫と連携があったのか。また、同時に沖縄では井戸に対する拝みが各地で行われ、水を神聖なものとして捉えてきた。本講座では、南城市佐敷津波古地域に残された記録と現在までつづく水の祭祀から、沖縄における水の民俗について解説した。



2023. 12.9

14:00~16:00 (開場 13:30)

沖縄県立博物館・美術館 学芸員講座

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

〒901-8200 沖縄県南城市佐敷津波古 3-1-1

入場料 無料

予約受付 11月13日 14:00~16:00

「沖縄の石ころと島人の生活」

※入場券はなくなり次第終了となります。

【お問い合わせ】 098-834-1111

【ホームページ】 <http://www.pref.museum.okinawa.go.jp/>

## 第10回 学芸員講座

演題：「沖縄の石ころと島人の生活 ～島々の地形・地質から考える～」

講師：宇佐美 賢（博物館班班長）

内容：沖縄県は、広大な海域に点在する多数の小さな島々からなるが、そこには様々な岩石が分布している。本講座では、県内各地の岩石標本に触れながら、その産地を写真で巡り、島々の地質地形とそれらの成り立ちや、生活との関わりについて紹介した。また会場には実際の岩石を展示し、参加者に見てもらうことで、素晴らしい岩石の世界を伝えた。



2024. 1.13

14:00~16:00 (開場 13:30)

沖縄県立博物館・美術館 学芸員講座

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

〒901-8200 沖縄県南城市佐敷津波古 3-1-1

入場料 無料

予約受付 11月13日 14:00~16:00

「沖縄の石ころと島人の生活」

※入場券はなくなり次第終了となります。

【お問い合わせ】 098-834-1111

【ホームページ】 <http://www.pref.museum.okinawa.go.jp/>



## 第11回 学芸員講座

演題：『旧石器時代の人類』展をもっと楽しむ

講師：澤浦 亮平（人類担当学芸員）

内容：「旧石器時代の人類」展を企画するに至った経緯、展示構成、展示物の選択など、展示や関連イベントだけではお伝えすることの難しい担当学芸員の頭の中や意図を、様々な裏話を交えながら解説した。第二部として30分の展示解説会を2回、各20名の定員で行った。



## 第12回 学芸員講座

演題：「戦後沖縄の教育を振り返る 1945-1972」

講師：宮城 修（歴史担当学芸員）

内容：八・四制、文教学校、教育区、教育税など、聞いたことがあるだろうか。もしかしたら、学校現場で現に働いている先生方にも馴染みのない言葉かもしれない。復帰前の教育制度は、基本的には日本本土の教育法令等に準拠しながらも、異なる制度等が一部みられた。本講座では戦後の学校のあゆみ、教育行政制度の移り変わりなど、復帰前の教育を取りまく状況について紹介した。



## VI 博物館常設展展示解説会

### 1 展示解説会の実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 14：00～15：00までの1時間

場 所：博物館常設展示室

#### (4) 受講方法

当日先着15名（13：30～ふれあい体験室前にて受付）

### 2 展示解説会の実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介。参加者の内訳は、初めて参加するお客様のみならず年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。各学芸員が1回ずつ担当し開催した。

回数	期日	分野	講師名	定員	参加者
1	4月13日（木）	人類	澤浦 亮平	15	15
2	5月11日（木）	教育普及	平川 信幸	15	15
3	6月8日（木）	人類	山崎 真治	15	15
4	7月13日（木）	歴史	崎原 恭子	15	15
5	8月10日（木）	生物	菊川 章	15	13
6	9月14日（木）	美術工芸	伊禮 拓郎	15	12
7	10月12日（木）	考古	山本 正昭	15	11
8	11月9日（木）	地質	新山 颯大	15	12
9	12月14日（木）	美術工芸	篠原 あかね	15	9
10	1月11日（木）	民俗	大城 沙織	15	14
11	2月8日（木）	地学	宇佐美 賢	15	14
12	3月14日（木）	歴史	宮城 修	15	15

## Ⅶ バックヤードツアー

### 1 バックヤードツアーの実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

#### (2) 内容

普段見ることができない博物館内の各部屋を見学する。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第4土曜日 14:00～15:00までの1時間

場 所：博物館バックヤード

#### (4) 受講方法

事前申込10名（開催1週間前より電話・総合案内で受付）

### 2 バックヤードツアーの実施状況

バックヤードツアーは学芸員が講師を務め、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指している。安全性を考慮し、学芸員と指定管理者スタッフの2名体制で臨んだ。学芸員研究室、研究資料室（書庫）、自然史実験室、トラックヤード、写真撮影室、冷凍室、工作室を基本コースとし、収蔵庫は専門分野を中心に案内した。また、建物の構造やIPM（Integrated Pest Management：総合的有害生物管理）の取り組み、資料の修復等について解説するなど、博物館の役割や使命を理解しやすくする工夫をしながら実施した。

回数	期日	分野	講師名	定員	参加者
1	4月22日（土）	人類	澤浦 亮平	10	12
2	5月27日（土）	人類	山崎 真治	10	5
3	6月24日（土）	教育普及	平川 信幸	10	7
4	7月22日（土）	生物	菊川 章	10	12
5	8月26日（土）	美術工芸	篠原 あかね	10	11
6	9月23日（土）	民俗	大城 沙織	10	8
7	10月28日（土）	美術工芸	伊禮 拓郎	10	9
8	11月25日（土）	歴史	宮城 修	10	10
9	12月23日（土）	地学	宇佐美 賢	10	10
10	1月27日（土）	歴史	崎原 恭子	10	10
11	2月24日（土）	教育普及	平川 信幸	10	9
12	3月23日（土）	地質	新山 颯大	10	11

# VIII 夏休み！こどもフェスタ 2023

## 1 夏休み！こどもフェスタの実施要項

### (1) 趣旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

### (2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

### (3) 実施方法

対象：県内の小学生・中学生

実施日：令和5年7月26日（水）から7月28日（金）まで

時間：9：00～16：30 ※1教室およそ90分程度

定員：各分野10名程度（事前申込制） ※教室によって変更あり

参加料：有料

場所：実習室を中心に行う。

### (4) 受講方法

各分野の担当学芸員の日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。

事前申込制 ※応募者多数の場合抽選



① チラシ表



② チラシ裏

## 2 夏休み！こどもフェスタ

期日・教室内容・講師	参加	
<b>【7月26日（水）】</b>		
①『カタツムリの不思議にせまってみよう』	菊川 章【自然史】	11名
②『貝のアクセサリーづくり』	山崎 真治【人類】	8名
③『みんなの進化展「プレミアム解説会」』 part 1	菊川 章【自然史】	9名
④『動物の歯の石膏レプリカを作ろう』	澤浦 亮平【人類】	8名
<b>【7月27日（木）】</b>		
⑤『那覇泉崎ゆっくりウォーク』	宮城 修【歴史】	3名
⑥『みんなの進化展「プレミアム解説会」』 part 2	菊川 章【自然史】	11名
⑦『ズームイン！砂粒のミクロの世界を見てみよう』	新山 楓大【地質】	6名
<b>【7月28日（金）】</b>		
⑧『クバオージを作ってみよう』	大城 沙織【民俗】	9名
⑨『みんなの進化展「プレミアム解説会」』 part 3	菊川 章【自然史】	9名
⑩『香りを聞こう！匂い袋作りと聞香体験』	伊禮 拓郎【美術工芸】	16名

### 夏休み！こどもフェスタ1日目

7月26日（水）

① 菊川 章 『カタツムリの不思議にせまってみよう』において、沖縄のカタツムリをじっくり観察して、特徴を学んだ。



②山崎 真治 『貝のアクセサリーづくり』  
貝を使って旧石器人が身につけたアクセサリーを作った。



③菊川 章 『みんなの進化展「プレミアム解説会」』 part 1  
小学生を対象とした、担当学芸員によるプレミアムな展示解説会。



④澤浦 亮平 『動物の歯の石膏レプリカを作ろう』

動物の歯の石膏レプリカを制作した。



夏休み！こどもフェスタ2日目

7月27日（木）

⑤宮城 修 『那覇泉崎ゆっくりウォーク』

石碑を巡って県庁周辺の歴史（近現代）をたどった。



⑥菊川 章 『みんなの進化展「プレミアム解説会」』part 2

小学生を対象とした、担当学芸員によるプレミアムな展示解説会。



⑦新山 楓大 『ズームイン！砂粒のミクロの世界を見てみよう』

色々な種類の砂を観察して違いを比べた。



- ⑧大城 沙織 『クバオージを作ってみよう』  
クバの葉を材料に扇を制作した。



- ⑨菊川 章 『みんなの進化展「プレミアム解説会」』 part 3  
小学生を対象とした、担当学芸員による展示解説会。

- ⑩伊禮 拓郎 『香りを聞こう！匂い袋作りと聞香体験』  
香木を使って香袋を作った。



## IX ふれあい体験室

### 1 ふれあい体験室の概要

#### (1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示・部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せ持っている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

#### (2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができる。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとする。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されている。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていく。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示を行う。

#### (3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

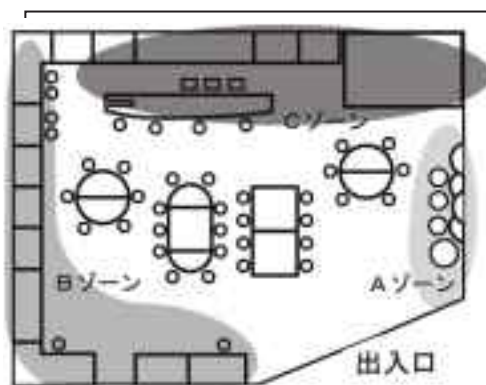
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象とする。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指す。

#### (4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としている。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもある。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けている。

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直視的に一見して内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 ・来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されている。耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 ・来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作例を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・設置、取扱いが難しい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 ・介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 ・来館者によっては手助けが必要なし場合もある。

見取り図（ゾーニング図）





## 2 体験キットの種類

No.	タイトル	分野	小テーマ	中テーマ	大テーマ	備考
1	サインを見のがすな！	自然史	きみはだあれ？	生物界	自然のしくみ・先人の知恵	平成19年度 製作
2	小さな生き物の大きな仕事					
3	耳をすませば					
4	この骨だれの？					
5	サンゴと生きる					
6	いろいろなタネ		自然のすがた			
7	いろいろな木と草					
8	いろいろな石と砂					
9	見える星座・見えない星座		地史			
10	化石 ～生きていたあかし～					
11	港川人研究所	考古	地下にねむる 歴史のなぞ			
12	土層と遺物からわかること					
13	石で築く					
14	ヌチグスイ	民俗	食の知恵	人々のくらし		
15	イノー ～海の食料庫～		食の習わし			
16	御三味(ウサンミ)		生活のくふう			
17	いろいろな道具		沖縄のコトバ			
18	島々のコトバ		シマの心			
19	いろいろな玩具					
20	いろいろな楽器					
21	衣からわかること	美術工芸	色のひみつ ・形のふしぎ			
22	焼物 ～かたちのわけ～					
23	漆 ～飾るたのしみ～					
24	印かんってなあに？	歴史	国のかたち			
25	島のかたち					
26	記録のくふう					
27	国々とのおつきあい					
28	サンゴとカッチュウソウの深～い仲					
29	コロコロ生態系	自然史	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業 「ふれあい体験室機能強化事業」実施におけ る体験キットとして製作	平成27年度 製作		
30	岩石観察					
31	化石組み立て体験	美術工芸				
32	緋のしくみ					
33	三線のかたち①・②					
34	仁王像	民俗				
35	ウチナーの昔話					
36	チュンジー	歴史				
37	万国津梁の鐘					

※平成29年度に製作した開館10周年記念特別展「海の沖縄」関連体験キットは、ふれあい体験室の体験キット登録を解除し、貸出用教育普及資料として利用。



No. 2 「小さな生き物の大きな仕事」



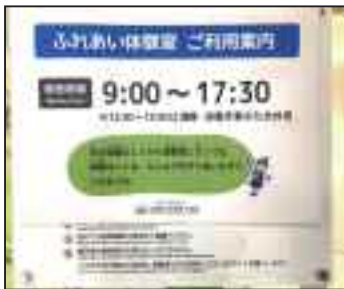
No. 37 「万国津梁の鐘」

### 3 ふれあい体験室の運営状況

#### (1) 今年度の運営状況

昨年度の11月から2年4カ月ぶりに再開し、少しずつ日常を取り戻しつつある。今年の5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行したことを受け、当体験室も感染対策の緩和を行った。消毒のための休室時間の確保や着衣体験の休止などの対応策は継続しているものの、団体客の受け入れやボランティアの活動再開など、それ以外の運営においてはほぼコロナ前と変わらないサービスを提供している。

今年度の夏は「みんなの進化展」や「MINIATURE LIFE 展2」などが企画され、夏期中の混雑を想定してスタッフ2名体制で運営にあたり、来場者と展示物の安全管理を徹底した。今年度の来場者数は、3月15日時点で62,102名（1日平均219名）となっている。



利用案内掲示板



着物展示の様子

#### (2) スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（沖縄美ら島財団）と博物館ボランティアスタッフで運営を行っている。現在、職員は常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ7名を配置している。内2名は新規スタッフとして新たに採用し、12月から1カ月の研修を行った。また、今年度からふれあい体験室における博物館ボランティアの活動も再開し、共に来場者への体験サポートに取り組んでもらった。

### 4 ふれあい体験室の取組み

#### (1) ふれあい体験室ワークショップ

ふれあい体験室の体験キットや展覧会の充実および関心を高めることを目的として、毎週土曜日にワークショップを実施している。今年度は季節ごとに4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度が低く短時間で取り組める内容のものを選定した。秋期には博物館常設展の展示と絡めて沖縄の装飾品の歴史について伝え、学びを深めてもらった。昨年度から引き続き、各プログラムに参加するごとにスタンプを集めることができる「スタンプラリーカード」を実施。昨年以上にスタンプラリーの参加者が多く、コンプリート賞の景品も配布し、集める楽しさを提供することができた。

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール

講 師：新垣 麻乃、藤田 早苗、大濱 萌子、石田 沙紀（沖縄美ら島財団）

対 象：5歳から大人まで（小学3年生以下は保護者同伴）

開催日数：49日

参加者数：767名（一日平均16.3名） ※3月15日現在

主 催：一般財団法人 沖縄美ら島財団

## ①4・5・6月「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

内 容：体験キット No.19「いろいろな玩具」に関連して、沖縄の昔ながらの草編み玩具を画用紙やソフトテープを使って制作する。

日 時：2023年4月～6月の毎週土曜日（全13回）

①10:00～11:00「馬グラー」

②11:00～12:00「ハブグラー」

定 員：事前申込18名（各回9名）

参加費：300円

参加者数：171名（1日平均13.2名）



## ②7・8・9月「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」

内 容：体験キット No.10「化石」に関連して、アンモナイトや三葉虫などの化石の型を使い、樹脂粘土を流し込んで化石のレプリカを制作する。

日 時：2023年7月～9月の毎週土曜日（全13回）

※8月5日（土）→8月20日（日）へ変更

①10:00～11:00／②11:00～12:00

定 員：事前申込18名（各回9名）

参加費：400円

参加者数：233名（1日平均17.9名）



### ③10・11・12月「ふれたい博士のペーパービーズでアクセサリづくり」

内 容：不要になったポスターを利用して紙からビーズを作り、ネックレスやブレスレットに仕上げる。博物館常設展に関連し、沖縄で使用されていた装飾品について伝える。

日 時：2023年10月～12月の毎週土曜日（全12回）

①10:00～11:00／②11:00～12:00

定 員：事前申込18名（各回9名）

参加費：300円

参加者数：202名（1日平均16.8名）



### ④1・2・3月「ふれたい博士のびんがたデザイン」

内 容：体験キット No.21「衣からわかること」に関連して、紅型に見られる図柄の意味や形について学びながら、スタンプを使って紅型模様のトートバッグを制作する。

日 時：2024年1月～3月の毎週土曜日（全11回）

①10:00～11:00／②11:00～12:00

定 員：事前申込18名（各回9名）

参加費：600円

参加者数：125名（1日平均17.9名） ※2月24日時点



## (2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

### ①「楽しくさわってあそんで学ぶおきみゅーのゴールデンウィーク 2023」関連催事

内 容：GW にあわせて、過去に人気のあったプログラムを特別に開催した。

プログラム：a「ジェルキャンドルで小さな海を作ろう！」

b「星座万華鏡づくり」

日 時：2023年5月3日（金）～5月5日（日）

場 所：エントランスホール

講 師：新垣 麻乃、保久村 智恵、藤田 早苗（沖縄美ら島財団）

定 員：60名（各日10名）

参加費：a 600円／b 300円

参加者数：a 30名／b 29名 計 59名



### ②ふれあい体験室オンラインワークショップ 「親子で楽しく♪カラフルなスケルトンリーフの標本瓶づくり」

内 容：人気プログラム「ふれたい博士のカラフル葉脈標本」をオンライン体験サイト「aini（アイニ）」を利用して提供。葉脈だけを取り出した葉を好きな色に染め上げ、ハーバリウムオイル入りの標本瓶に詰めて、葉脈標本を制作する。

日 時：2023年6月11日（日）14:00～16:00

場 所：オンライン（Zoom）

講 師：新垣 麻乃（沖縄美ら島財団）

定 員：事前申込5組

参加費：1,500円（郵送費・材料費込み）

参加者数：5名



③第14回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 国頭村  
「ふれたい博士のびんがたデザイン」

内 容：当館にて1月～3月に提供しているワークショップを  
国頭村の子供たちにも参加してもらえるよう、移動展  
関連催事として提供した。

日 時：2024年1月28日（日）

①10:00～11:00／②11:00～12:00／③14:00～15:00

場 所：国頭村民ふれあいセンター

講 師：新垣 麻乃（沖縄美ら島財団）

定 員：30名（各回10名）

参加費：600円

参加者数：20名



## X ボランティア養成事業

### 1 目的

沖縄県立博物館・美術館は県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としている。

### 2 ボランティアの活動内容

ボランティア養成事業と解説ガイドボランティア養成事業を隔年で行っている。今年度は解説ガイドボランティア養成事業を行い2名がガイドボランティアとして新規登録された。

#### (1) ボランティアの種類

博物館ボランティア

#### (2) 活動の種類・活動内容

博物館ボランティア	
□博物館ボランティア	
①展示解説ガイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、一般団体向け常設展示解説補助 (主に学習プログラム対応)</li> <li>・総合展示部門、各部門展示解説補助</li> </ul>
②体験学習サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校団体、教職員向け講座対応：誘導、民具体験学習の支援</li> <li>・ふれあい体験室支援：ふれあい体験室における活動支援</li> <li>・体験学習教室支援：体験学習・各種講座</li> <li>・移動展等における補助</li> <li>・各種行事の際の補助</li> </ul>
③資料整理活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞スクラップ等</li> </ul>
④その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア間の連絡</li> <li>・各種刊行物の発送業務</li> <li>・沖縄美ら島財団（指定管理者）主催催事支援</li> <li>・ふれあい体験室ワークショップ支援</li> <li>・ふれあい体験室 I P M 清掃</li> </ul> <p>※原則：毎月第4月曜日 13：20～</p>
□収蔵資料整理ボランティア	
① 収蔵資料等の整理活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集資料の整理</li> <li>・未整理資料の整理</li> <li>・その他</li> </ul>
■総合展示ガイドボランティア	
※博物館ボランティアのうち、ガイドライセンス保持者	
①案内型ガイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合展示部門解説ガイド（学校団体/一般来館者）</li> </ul>
②待機型ガイド (ジンプン BOX)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合展示部門における展示解説</li> </ul>

※ふれあい体験室専属ボランティアは、令和2年度より博物館ボランティアへ統合。

### 3 令和5年度博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座実施要項

#### (1) 目的

来館者へのサービス向上や多様化するニーズに対応するため、一般来館者（修学旅行生含む）向けの総合展示及び5つの部門展示解説ガイドボランティア養成を行う。

#### (2) 方針

##### ①展示解説ガイド実施に向けて

博物館ボランティアの分野別勉強会協力のもと、ボランティアによる総合展示及び5つの部門展示解説ガイドを実施する。

活動においては、指定管理者（沖縄美ら島財団）教育普及担当がコーディネートの役割を担う。

解説場所や内容については、「展示解説マニュアル」を基本とする。

##### ②展示解説ガイドボランティア養成について

博物館教育普及担当は令和5年度総合展示及び5つの部門展示解説ガイドボランティア養成の企画・立案を行う。

分野別担当学芸員は、解説ガイドの項目及び内容等について監修をおこなう。

#### (3) 手順

##### ①学校団体対象（県内）《実施中》

情報センター受付 → 学習プログラム（学校下見必修） \* 県教育普及コーディネート

##### ②一般来館者（修学旅行生）対象

☆総合展示部門

情報センター受付 → \* 沖縄美ら島財団教育普及コーディネート⇄友の会連携

#### (4) 内容

##### (1) 開催方法

本養成講座は、

①ガイド基礎・・・展示室における、学芸員の資料解説（主に概要・見どころ）受講を実施。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集人数を15名にする。

②先輩ガイド観察期間・・・③の訓練の前に最低3回以上、夏休み期間に先輩展示ガイドの後ろについて学習を深める期間。

③ガイド解説訓練・・・下記B（待機型：ジンプンBOX）ガイド解説訓練を中心に実施の講座を開催する。

##### (2) 展示室における、ガイド内容について（通常のガイドボランティアの活動）

#### A（案内型） 30分コース⇒ 総合展示室のみを30分でまわる

(1) 総合展示室5か所ほどの展示項目について、来館者を解説案内する。

(2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

本講座は、Bを中心に開催す

#### B（待機型） ジンプンボックス⇒ 総合展示室への配置（時間設定を行う）

(1) 総合展示室の5カ所に配置。一か所5分程度を目安に来館者に解説する。

(2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

※新型コロナウイルスの感染状況に鑑みガイド基礎講座の内容を変更する場合があります。



(5) 講座受講対象

①ガイド基礎・・・学芸員によるガイドを受けるため、全ボランティアを受講対象とする。

②先輩ガイド観察期間・・・新規の展示ガイド養成講座受講生を対象とする。

③ガイド訓練・・・新規の展示ガイド養成講座受講生を対象とする。

※すでに総合展示ガイドの交付を受けている方は、受講申請書の提出は必要ありません。

そのほかの全ての方々については、受講申請書を提出して下さい。

※この養成講座は、あくまでも「ガイドを育てる」ための講座です。申請書を提出して受講する方々は、単なる勉強目的のみでの参加は遠慮願います。

※8期の方々に、ボランティア証交付後、ボランティア活動において十分な活動がなされていない方については、書類選考の上、ガイド解説訓練の参加をお断りする場合があります。

(6) 講座について

(i) 第5回 総合展示及び部門展示解説ガイド養成講座 (①ガイド基礎)

①募集期間

2023年 4月中

(ii) 第5回 総合展示及び部門展示解説ガイド養成講座 (②ガイド解説訓練)

申込み方法: 申込用紙に記入し、ボランティア室設置の箱に投函する。

(7) 講座修了までの流れ

①ガイド基礎

☆ボランティア養成講座における専門講座  
第1回～第8回終了後、新規の養成講座受講者は②へ

☆講座修了要件として、ボランティア養成の専門講座は第1回～第8回全部を受講すること。

☆原則として講座の補講は設けない。



②先輩ガイド  
観察期間

(i) 夏休み期間に先輩展示ガイドの後ろについて学習  
※ガイドの活動日程・曜日は後日情報提供を行う。  
(ii) この参加を経て、日程表2 ③ガイド訓練へ

☆夏休み期間に、最低3回以上参加すること。

☆各位のスケジュールに合わせて計画を行ってよい。



③ガイド訓練

(i) 全8回中3回以上の出席。  
(ii) 実習では、1日あたり各自2度のガイド実習(実践研修)を行う。  
\*1人=1度に2~3カ所(約10分~15分)  
(iii) 7月~8月の夏休み期間中においては、先輩ボランティアの

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第 1 号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿(第 2 様式)へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証(第 3 号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

- この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。  
この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。  
この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

# <別紙資料> 令和4年度ボランティア通信

4月号①

4月1日発行 第185号 (R5年4月)

## 博物館 ボランティア通信

**お知らせ① 春のボランティア全体会の開催について**

- ・日程：4月18日(火) 14:00~15:00
- ・場所：講堂(3F)
- ・対象：博物館ボランティア
- ・持ち物：①令和4年度ボランティア証 ②整理許可書

※お知らせ①②③④については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や一部変更をする場合があります。

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班(直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② ガイドボランティア養成講座実施について**

5月より「令和5年度博物館総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座」を実施します。今回のボランティア通信には、実施要項と申込書を同封しております。

講座の詳細について、受講を検討されている皆さまは、資料のご確認をお願いいたします。

- 募集人数：15名(未受講ボランティア優先) ●募集期間：4月28日(金)まで
- 提出場所：ボランティア室の提出箱 ●結果通知：5月2日(火)

**お知らせ③ 4月教育普及関連行事**

日程	内容	場所
4/13(木) 14:00~15:00	常設展示解説会(人観) ※当日受付 定員15名 講師：澤浦 亮平(人観担当)	常設展示室 ※ふれあい体教室前にて30分前より受付
4/15(土) 14:00~16:00	文化講座(歴史) ※当日申込 「沖縄における全基地撤去後の経済を考える」 定員200名 講師：友知 政樹(沖縄国際大学教授)	講堂(3F)
4/22(土) 14:00~15:00	バックヤードツアー(人観) ※事前申込4/15(土)~ 定員10名 講師：澤浦 亮平(人観担当)	バックヤード ※ふれあい体教室前に10分前集合

※4/28(土)実施予定だった学芸員講座(教育普及)は、8/5(土)に延期となりました。  
※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200(県立博物館・美術館 代表)

4月号②

**お知らせ④ ボランティア募集**

日程	募集内容	備考
4/24(月) 13:20~	ふれあい体教室IPW清掃 5名程度募集 展示室のほこり落としなどの作業	

**ご報告① 異動のご挨拶**

**外間 一先 (博物館班 班長)**

博物館班に勤務して、あっという間の8年間でした。赴任当初は美術工芸分野、3年目から歴史分野の近現代史、最後の2年間は博物館班長を担当しました。琉球王国文化遺産集積・再興事業や日本民藝館との企画展、文化庁研修、海外展覧会など最初の2年間だけでも充実した内容でした。歴史分野では開館10周年特別展をはじめ歴史部門展示室を活用して高校野球展、沖縄スポーツ史に関する展示を行うとともに古写真や劣化フィルムのデジタル化に取り組みことができました。どれもワクワクすることはばかりで、博物館で勤務していることに日々感謝の気持ちで一杯でした。

一方で、初めての経験や不慣れな業務であるため忙しさで目が回るような時もありました。しかし家族に支えられ県博美のボランティアの皆さまに励まされていたので、そして県職員、指定管理者にお世話になりながら務めることができました。本当にありがとうございました。末筆になりますが、皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

**大城 久義 (教育普及担当)**

この度の、人事異動で那覇市の中学校へ転勤することになりました。ボランティアの皆様にはとてもお世話になりました。ありがとうございます。

コロナ禍において、様々なボランティア活動が制限される中、教育普及担当として安全第一に取り組んでまいりました。ボランティアの皆さまにも多大なご協力を頂き、本当にありがとうございました。これからも、ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。3年間、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

5月号①

5月1日発行 第186号 (R5年5月)

## 博物館 ボランティア通信

**●令和5年度 博物館班メンバー紹介**

副館長	中屋 智子	沖縄県立博物館・美術館 博物館班(直通) TEL 098-851-5401 FAX 098-941-3650
班長	宇佐美 賢	

歴史	崎原 恭子	人類	山崎 真治	考古	山本 正昭
歴史	宮城 修	人類	澤浦 亮平	民俗	大城 沙織
美術工芸	篠原 あかね	地学	新山 颯大	学芸業務 補佐	大滝 ゆかり
美術工芸	伊禮 拓郎	生物	菊川 章	学芸業務 補佐	園原 謙
学芸補助	渡良利 耕平	事務補助	大庭 ひろみ	学芸業務 補佐	奥那嶺 一子

**教育普及** 平川 信幸  
**普及補助** 照座 啓奈

**●令和5年度 ボランティア登録者**

博物館ボランティア	47名
資料整理ボランティア(学芸専属)	34名

**お知らせ① ボランティア連絡会の開催について**

- ・5月16日(火)15:00~16:00 博物館講座室
- ・対象：各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

※お知らせ①②③④については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や一部変更をする場合があります。


5月号②

**令和5年度 沖縄県立博物館・美術館移動展 in 国頭村**

博物館班 平川信幸(教育普及担当)

- 1 趣旨  
沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術への理解を深めることができるよう、これまで収集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきました。しかし、島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい状況にあります。移動展は、離島や遠隔地の方々に収蔵資料の展示をみていただくことにより、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施します。
2. 体制  
主催：沖縄県立博物館・美術館、(一財)沖縄美ら島財団  
後援：国頭村教育委員会
3. 実施地域 国頭村
4. 会期 令和6年1月26日(金)~28日(日)  
時間 9時から午後5時(1月26日は午後1時半開会式)  
※展示設置期間 1月23日(火)~25日(木)  
※展示撤収期間 1月29日(月)~31日(水)
5. 会場  
国頭村ふれあいセンター(2F 講堂)：展示会場  
国頭村ふれあいセンター(1F 会議室 20名)：文化講座  
国頭村ふれあいセンター(1F 多目的ホール 30名)：ミニシアター

※すこし、距離がありますが沖縄県内なので、お時間がある方はぜひ足を運んでください。



**お知らせ④ ボランティア募集**

募集用紙をボランティア室に掲示しています。ご希望の募集内容がありましたら、お名前のご記入をお願いいたします。

日程	募集内容	募集人数
5/22(月) 13:20~15:00	ふれあい体験室 IPW 清掃 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度
6/2(金) 15:00~17:00	少人数体験ガイド ※募集4切5/14(日) 学校法人カトリック学園 海星小学校 6年生 14名	4名

※募集の詳細については、ボランティア室に掲示している募集用紙をご確認ください。  
※ガイドについては、**当日開始前に打合せを行います**ので、内容のご確認をお願いいたします。

**●博物館班 着任のあいさつ**

博物館班には4月から4名の職員が仲間入りしました  
みなさまどうぞよろしくお願いたします

**【教育普及】平川 信幸 (ひらかわ のぶゆき)**  
今年4月に着任しました。約十年ぶりの博物館・美術館になります。教育普及業務ははじめてなので、至らないことがいろいろあるかと思いますがよろしくお願いたします。この一年、博物館を通じていろいろと学んで楽しく活動していきます。

**【民俗】大城 沙織 (おおしろ さおり)**  
みなさまはじめまして。このたび沖縄県立博物館・美術館の民俗担当学芸員となりました大城沙織と申します。冲縄でこのような仕事に携われることを大変嬉しく思っております。まだまだ不慣れでわからないことばかりですが、毎日多くのご意見を吸収していきたいと思っております。頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。

**【学芸補助】渡眞利 耕平 (とまり こうへい)**  
みなさまはじめまして。この度、学芸業務補助を担当することになりました渡眞利耕平です。私はこれまで豊後県博物館、沖縄県平和祈念資料館で学芸員補助として勤務していました。今回はこれまでの経験を活かし、沖縄県立博物館・美術館の職員の一員として多くの知識を吸収したいです。ボランティアのみなさま、県立博物館・美術館に着任して1年目ですがどうぞよろしくお願いたします。

**【事務補助】大庭 ひろみ (おおそこ ひろみ)**  
はいたい！4月より博物館班の事務補助となりました大庭ひろみです。豊かな自然と独自の文化や芸術に恵まれた沖縄が大好きですが、わからないことも多いので、ボランティアの皆様にご教授いただくことが多いかと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

6月1日発行 第187号 (R5年6月)

# 博物館 ボランティア 通信

**お知らせ① 全館消毒・消毒について**

・県立博物館・美術館は、6月28日(水)~7月6日(木)まで休館します。よろしくお願いたします。

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班 (直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② ボランティア連絡会の開催について**

・6月20日(火) 15:00~16:00 博物館講座室  
・対象：各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表  
※お知らせ②③④⑤については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や一部変更をする場合があります。

**お知らせ③ 6月の教育普及関連催事**

日程	内容	場所
6/8(木) 14:00~15:00	常設展示解説会(人間) ※当日受付 定員 15名 講師：山崎 真治(人間担当)	ふれあい体験室前 (30分前受付)
6/10(土) 14:00~16:00	学芸員講座(美術工芸) ※当日受付 「琉球の染め・織り・縫(ぬい)」 定員 80名 講師：篠原 あかね(美術工芸担当)	博物館講座室(1F)
6/17(土) 14:00~16:00	文化講座(歴史) ※当日受付 「ある首里土族の400年~田名家の人物と伝来資料群」 定員 200名 講師：高良 倉吉(琉球大学名誉教授) 田名 真之(元沖縄県立博物館・美術館 館長)	講堂(3F)
6/24(土) 14:00~15:00	バックヤードツアー(教育普及) ※事前申込6/17(土)~ 定員 10名 講師：平川 信幸(教育普及担当)	ふれあい体験室前 (10分前集合)

※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ④ ボランティア募集**

日程	募集内容	募集人数	備考
6/1(木) 10:00~12:00 13:00~15:00	発送作業(夏休み教職員向け講座) 換み取り・封入などの作業	5名程度	・午前か午後いつれかのみの参加も可能です。
6/16(金) 9:45~11:00	少人数体験ガイド 6/16(金)まで オキナワインターナショナルスクール 1年生 16名	6名程度	・当日打合せ 9:00~9:45
6/28(木) 9:00~12:00	鑑賞消毒 養生作業 ふれあい体験室・実習室・実習準備室など	10名程度	
7/5(水) 9:00~12:00	鑑賞消毒 回復作業 ふれあい体験室・実習室・実習準備室など	10名程度	

**お知らせ⑤ 夏休み！子どもフェスタ2023 ボランティア募集について**

今年は下記の日程で開催する予定です。ボランティアの皆さまには、当日のサポートをお願いするため、事前の勉強会へのご参加をお願いいたします。本催事が子ども達にとって充実した学びの場となるよう、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

**●ボランティア募集期間**  
・6月15日(木)~6月30日(金)まで  
※6月28日(水)~7月6日(木)は、鑑賞消毒のため休館となっています。

**●申込についてのお願**

- ボランティア活動の場をできるだけ多くつくるため、「1人2教室」までの申込とします。  
※希望者が偏った場合は抽選となり、期日を過ぎても募集人数に達していないものは、再募集をかけます。再募集の場合は、「1人2教室」の限定を外すものとします。
- 一部のプログラムを除いて、本書の1週間前頃から事前勉強会を行います。**事前勉強会・本書ともにご参加をお願いします。**  
※勉強会では「参加費」が必要なものがあります。参加費用取扱いのご理解とご協力をお願いいたします。
- 希望者は、電話(博物館班:851-5401)またはメール(hakubora5401@gmail.com)でご連絡下さい。

裏面につづく

**●フェスタの日程**

時間	7月28日(水)	7月27日(木)	7月29日(金)
10:00~11:30	菊川 章(生物) ボランティア2名 カタツムリの不思議にせまってみよう！	宮城 修(歴史) 9:00~11:00 ボランティアなし 那覇泉崎ゆっくりウォーク	大城 沙織(民俗) ボランティア4名 クバオージョ 作ってみよう！
13:00~14:30	山崎 真治(人間) ボランティア2名 目のアクセサリを 作ってみよう！	菊川 章(生物) ボランティアなし みんなの進化展 「プレミアム解説会」	菊川 章(生物) ボランティアなし みんなの進化展 「プレミアム解説会」
15:00~16:30	藤浦 亮平(人間) ボランティア3名 動物の歯の石膏レプリカを作ろう！	新山 龍大(地学) ボランティア3名 ズームイン！砂粒のミクロの世界を見てみよう！	伊禮 拓郎(工芸) ボランティア4名 巻りを聞こう！ 匂い袋作りと開香体験

※7月26日(水)菊川章学芸員の催事については、当日に打ち合わせを実施します。

**●事前勉強会の日程**

時間	7月14日(金)	7月20日(木)	7月21日(金)
10:00~11:00	藤浦 亮平学芸員 材料費 500円	山崎 真治学芸員 材料費 300円	新山 龍大学芸員 材料費 調整中
13:00~15:00	なし	大城 沙織学芸員 材料費 調整中	伊禮 拓郎学芸員 材料費 500円

**●ご報告① 総合展示解説ガイド基礎養成講座 開始**

5月12日(金)より養成講座がスタートしました。新規の申込者は2名です。当日は平川学芸員による開講式が行われ、その後は人間の山崎学芸員による講座がありました。  
養成講座は、5月から7月までの計8回を予定しています。今後も養成講座の様子をお伝えしていきます。

写真1 養成講座を受ける前の心得について話している様子(平川学芸員)

写真2 2007年と2014年の港川人の模型について解説している様子(山崎学芸員)

## 博物館

7月1日発行 第188号 (R5年 7月)

# ボランティア通信

**お知らせ① 全体帰業・消毒について**

・帰業消毒にともなうメンテナンス休館  
6月28日(水)～7月6日(木)まで

**お知らせ② ボランティア連絡会の開催について**

・7月19日(水) 15:00～16:00 博物館講義室  
・対象: 各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

**お知らせ③ 7月教育普及関連行事**

日程	内容	場所
7/8(土) 14:00～16:00	<b>学芸員講座(歴史)</b> ※当日受付 歴史部門展示室 「展示公開 おもしろさうし・混浴験集・田家文書」の紹介 定員80名 講師: 崎原 恭子(歴史担当)	博物館講義室(1F)
7/13(木) 14:00～15:00	<b>常設展示解説会(歴史)</b> ※当日受付 定員15名 講師: 崎原 恭子(歴史担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前に30分前から受付
7/15(土) 14:00～15:00	<b>文化講座(美術工芸)</b> ※当日受付 「琉球の染織に見る、周辺地域との交差—その模様・技法・素材から探る」 定員200名 講師: 小山 弓弦(東京国立博物館)	講堂(3F)
7/22(土) 14:00～15:00	<b>バックヤードツアー(生物)</b> ※事前申込 7/15(土)～ 定員10名 講師: 菊川 章(生物担当)	※ふれあい体験室前にて10分前から受付
7/23(日) 15:00～16:00	<b>デジタルミュージアム推進事業</b> ※当日受付 「令和5年度 第1回ウチナーの民話上映会」 定員80名 講師: 大城 沙織(民俗担当)	博物館講義室(1F)

裏面につづきます

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班(直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

日程	内容	場所
7/26(水)・7/27(木)・7/28(金) 9:00～16:30	<b>夏休み1こどもフェスタ2023</b> ※事前申込 7/7(金)～7/14(金) 抽選 展示室のほこり落としなどの作業 各定員5名～10名程度(小1以上)/参加費100円～ 講師: 博物館学芸員	博物館実習室(1F)ほか

※催事についての問合せ・申込: TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ④ ボランティア募集**

日程	募集内容	募集人数
7/24(月) 13:20～	<b>ふれあい体験室IPW清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度
8/2(水)	11:20～ 12:00 <b>夏休み職員向け講座</b>	8名
	13:00～ 13:50 常設展示室の解説ガイドと誘導 民具体験学習の解説と誘導	12名

※募集の詳細については、ボランティア室に掲示している募集用紙をご確認ください。  
※8/2(水)については当日開始前に打合せを行いますので、募集用紙のご確認をお願いいたします。

**ご報告① 新しい職員のご挨拶**

**【地質】 新山 雄大 (にいやま そうた)**  
皆さま、はじめまして。5月より地質担当の学芸員に着任いたしました、新山雄大と申します。顕微鏡を使わないと見えない小さな化石(微化石)が研究対象で、特に沖縄を含む琉球列島の介形虫(かいがいちゅう)という甲殻類の分類・生物地理について研究しています。色々な化石の魅力を伝えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



宇佐美班長に  
似ているね  
と言われます!

**ご報告② 総合展示部門解説ガイド養成講座の様子**



写真1 大城沙織学芸員(民俗担当)



写真2 新山雄大学芸員(地質担当)

## 令和5年度博物館企画展と展示資料紹介

山本 正昭(考古担当)

今年の9月22日から11月19日の期間で、海を越える人々(前期)『琉球と倭寇のもの語り』というテーマで企画展を開催します。当企画展は14世紀後半から16世紀にかけて「モノ」から琉球を取り巻く対外交渉の実態と中国大陸沿岸部を主な活動拠点としていた倭寇との関係を見ていくことをコンセプトに据えています。

現在、当企画展の開催に向けて準備を進めているところですが、今回はどのようなものが主に展示されるのかについて紹介していきたいと思えます。

まずは当館が所蔵している資料からG・H・ケアが沖縄県内各地の遺跡から採集した陶磁器資料を出展します。これらは1950年代、宮古・八重山諸島の遺跡を中心にG・H・ケアが調査を行った際に採集した資料になります。これらは中国産青磁そして中国産青花、褐釉陶器といった舶載陶磁器で占められており、14世紀から15世紀にかけての交易が具体的に見て取ることができる資料になります。

次に紹介するのは那覇湊から中国・福建省の福州までの航路とその景観が描かれた『渡閩航路圖』になります。この資料の成立年代についてはその詳細が分からないものの、東シナ海を横断する船旅がとてつもなく長く、困難な旅であったのかを知ることができる数少ない資料になります。また、琉球から福州までの航路上においてどのような景色を琉球の使節が見ていたのかを知ることができます。

他機関からも多くの資料を借用して展示する予定となっています。主なものを挙げると久米島博物館所蔵の宇江城グスク発掘調査出土青磁碗、国立歴史民俗博物館からは弗部機軸、那覇市教育委員会から瀬地村跡出土遺物資料、宮古島市総合博物館からは福村賢頼氏が発掘調査した出土遺物資料のなど沖縄県内外から資料を借用して展示していく予定となっています。

この企画展を通して、14世紀後半から16世紀にかけて琉球列島ならびに東アジア海域にて何が起きていたのか、そしてこの時期に大きく社会が変化していったことを様々な「モノ」を通して見て、学んでいくことができると思っています。

最後に関連講座、そしてシンポジウム、展示解説会などのイベントも開催していきますので、是非これらも含めてご観覧、ご参加いただければと思います。(詳細はホームページでお知らせします)



写真1 渡閩航路圖

## 博物館

8月1日発行 第189号 (R5年 8月)

# ボランティア通信

**お知らせ① ボランティア連絡会の開催について**

・8月15日(火) 15:00～16:00 博物館講義室  
・対象: 各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

**お知らせ② 8月教育普及関連行事**

日程	内容	場所
8/5(土) 14:00～16:00	<b>学芸員講座(教育普及)</b> ※当日受付 「ものから読み解く沖縄の歴史—美術工芸的博物館案内—」 定員80名 講師: 平川 信幸(教育普及担当)	博物館講義室(1F)
8/10(木) 14:00～15:00	<b>常設展示解説会(生物)</b> ※当日受付 定員15名 講師: 菊川 章(生物担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前にて30分前から受付
8/10(木) 10:00～12:00	<b>体験学習教室(生物)</b> ※事前申込 7/18(火)～7/31(月) 「キリンの骨を並べてみよう!」 定員20名(小4～中3まで対象) 講師: 郡司 芽久(東洋大学助教)	博物館講義室(1F)
8/12(土) 10:00～12:00	<b>学芸員講座(生物)</b> ※当日受付 「みんなの進化入門 ～進化の舞台 琉球列島～」 定員80名 講師: 菊川 章(生物担当)	博物館講義室(1F)
8/19(土) 14:00～16:00	<b>文化講座(生物)</b> ※当日受付 「ダーウィンの夏休み」(すごい進化ラジオ公開収録) 定員200名 講師: 鈴木 紀之(高知大学准教授)	講堂(3F)
8/26(土) 14:00～15:00	<b>バックヤードツアー(美術工芸)</b> ※事前申込 8/19(土)～ 定員10名 講師: 篠原 あかね(美術工芸担当)	バックヤード ※ふれあい体験室前にて10分前集合

※催事についての問合せ・申込: TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ③ ボランティア募集**

日程	募集内容	募集人数
8/28(月) 13:20～	ふれあい体験ⅠPM清掃 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度

**お知らせ④ 民具体験実施予定校スケジュール**

今年度の民具体験は、ボランティア活動の一部再開に伴い、**ボランティアさんのサポートあり**で準備を進めております。今年度は、以下6校の県内小学校が来館予定です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

No.	日時	学校	生徒数
1	11/24(金) 9:30～12:00	豊見城市立上田小学校	160名(5クラス)
2	12/6(水) 10:00～12:00	南城市立玉城小学校	72名(2クラス)
3	12/21(木) 9:10～11:10	那覇市立小椋小学校	65名(2クラス)
4	1/12(金) 9:30～11:30	那覇市立新野小学校	92名(3クラス)
5	1/17(水) 9:00～12:00	那覇市立城岳小学校	78名(3クラス)
6	2/2(金) 9:00～11:30	那覇市立小椋南小学校	97名(3クラス)

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や一部変更する場合があります。

**お知らせ⑤ 民具体験の事前練習のご案内**

9月よりボランティアによる民具体験のサポートの実施に先立ち、民具体験の事前練習を実施します。以下の表にて参加できる日程にご参加をお願いいたします。

民具体験は、総合部門展示解説ガイドの資格が無くても参加できる全ボランティア対象の支援活動です。今回は、活動時にスムーズに対応できるよう、忘れていた知識などを改めて再確認するためのものです。この機会にぜひご参加下さいませよう、よろしくお願いいたします。

日程	募集内容	場所
9/12(火) 10:00～12:00	民具体験の事前練習	博物館実習室(1F)
9/13(水) 10:00～12:00	運搬の道具、洗濯の道具、着衣の道具について練習します。	
9/20(水) 10:00～12:00	解説役と聞き役に分かれて二人一組で実施予定です。	
9/20(水) 10:00～12:00		

**「みんなの進化展」化石コーナー展示紹介**  
新山 颯大(地質担当)

ボランティアの皆さま、ボランティア通信では初めての寄稿となります、地質担当の新山です。6月より開催されている『みんなの進化展～命はつながっている～』にて、第2章「祖先たちのものがたり」の化石コーナーの展示を担当しました。

化石コーナーの展示は、「保存の良い化石」、「新生代」、「中生代」、「古生代」の大きく4つに分けました。色々な時代の化石たちを使って、より細かい区分(例えば、白亜紀など)を網羅し、約5億4,000万年間の生命の進化を大まかに遊ることができるようにしました。化石コーナーの隣には、地質年表を札束に例えた展示があるので、それに合わせてキャプションに年代を具体的な数字で書いています。数字を見て、どれくらいの厚さの札束になるか頭の中で想像してみてください。大金持ちになった気分になれるかもしれません。(特に古生代)。極めて大きな数字が出てくる地質学分野の内容を扱う際には、こうした「例え」ができるかと説明しやすいと思います。

「保存の良い化石」は、古生物に関する「情報」を豊富に含んでいます。「情報」とは、本来は化石化しない柔らかい部分(軟体部=筋肉や皮膚、節足動物の付属肢など)の形、当時の棲息姿勢など、多岐に渡ります。展示した化石の一部は、じっくり観察すると軟体部が残っていることが分かります。そもそも生物が化石化する確率が低い中で、本来残るはずがない軟体部が化石化することは、ラッキー中のラッキーと言えます。始祖鳥のような軟体部の残った化石の発見は、生命の進化の過程を解き明かす大きな発見となってきました。私が研究対象としている介形虫も、軟体部の残った化石が報告されており、約5億年前から現在に至るまで、種が変わったとしてもその姿(体の構造)をほとんど変えていません。「生きた化石」として名高いシラカスはおよそ3億6,000万年前からあり姿を変えていないことが分かっていますが、介形虫たちはそれよりも遥かに長い間姿を変えていないのです。化石コーナー横に設置した顕微鏡には、軟体部が残った約4億4,500万年前の介形虫の化石を展示しているため、ぜひ観察してみてください。

生物は進化によって見た目や生活が大きく変わるとい印象があるかもしれませんが、「進化してもあまり変わらない」というパターンもあるのです。一言で「進化」と言っても、一概には言えない様々な進化の形があることを知ってもらえれば幸いです。



図1. 始祖鳥化石(保存の良い化石の一例)




図2. 介形虫化石

一般財団法人 沖縄美ら島財団  
Okinawa Chirashima Foundation  
2023年8月1日 第189号

博物館 ボランティア通信

**お世話になりました**

皆様  
お疲れ様です。財団、教育普及の松原です。  
この度、7月末をもって退職することになりました。  
5月から約3ヶ月間と短い間でしたが  
大変お世話になりました。  
皆様にはG.Wのイベントからとても親切にして頂き  
皆様のお陰でここまでやれてくれました。  
本当にありがとうございました。  
今後もおきみゅーに遊び行きますので  
その際はお声がけ頂けると嬉しいです♪



石田です！

**初めまして!**

**石田 沙紀(34)**  
那覇市出身  
大濱さんの後任で7月から配属になりました。  
石田沙紀と申します。  
博物館・美術館で働くことは長年の夢でした。  
分からないことが多く、皆様にご迷惑をおかけすることも  
多々あるかと思いますが、  
早く皆様のお力になれるよう努力して参りますので  
どうぞよろしくお願いいたします。

博物館  
**ボランティア通信**

9月8日発行 第100号(95年9月)

**お知らせ① ボランティア連絡会の開催について**

・9月20日(水) 15:00～16:00 博物館講座室  
・対象: 各曜日のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班(直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② 9月教育普及関連催事**

日程	内容	場所
9/2(土) 14:00～16:00	学芸員講座(考古) ※当日受付 「倭寇関連の史跡を読み解く～企画展『琉球と倭寇のもの語り』開催に向けて～」 定員 80名 講師: 山本 正昭(考古担当)	博物館講座室(1F)
8/5(土) 14:00～16:00	学芸員講座(教育普及) ※当日受付 「ものから読み解く沖縄の歴史～美術工芸的博物館案内～」 定員 200名 講師: 平川 信幸(教育普及担当)	講堂(3F)
9/14(木) 14:00～15:00	常設展解説会(美術工芸) ※当日受付 講師: 伊藤 拓郎(美術工芸担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前 にて30分前より受付
9/23(土) 14:00～15:00	バックヤードツアー(民俗) ※事前申込9/16(土)～ 定員 10名 講師: 大城 沙織(民俗担当)	バックヤード ※ふれあい体験室前 に10分前集合
9/30(土) 14:00～16:00	文化講座(歴史) ※当日申込 「倭寇関巻を読む」 定員 200名 講師: 須田 牧子(京大文学部編纂学 准教授)	講堂(3F)

※催事についての問合せ・申込: TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ③ ボランティア募集**

募集用紙をボランティア室に掲示しています。ご希望の募集内容がありましたら、お名前のご記入をお願いいたします。ガイドについては、当日開始前に打合せを行いますので、募集用紙のご確認をお願いいたします

日程	募集内容	募集人数	備考
9/25(月) 13:20~	<b>ふれあい体験型 IPM 清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	
10/20(金) 13:30~14:30	<b>少人数体験型ガイド</b> ※募集メチ 10/1(水)まで 渡嘉敷村立阿波連小学校 3年生4名	2名	当日開始 30分前より打合せを行います。
11/9(木) 9:00~10:00	<b>少人数体験型ガイド</b> ※募集メチ 10/1(水)まで 北大東村立北大東小学校 5・6年生6名	2名	当日開始 15分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。

※募集の詳細についてはボランティア室に掲示している募集用紙をご確認ください。

**お知らせ④ 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座**

5月より講座を受講の方にのご案内いたします。本講座は最後の講習としてガイド実習があります。受講について、免許取得のために受講中の方は全3回のご参加をお願いします。それ以外で受講申込をされている方は、下記の日程で実施しますので、ご希望の日程にぜひご参加下さい。

日程	実施内容	場所
9/7(木) 14:00~15:00	<b>ガイド実習</b> ※詳細ガイドマニュアル特号	
9/13(水) 14:00~15:00	常設展示室総合展示の各5ヶ所のポイントで時間内に展示解説をする練習をします。実際に先輩ボランティアの隣に付いて学習します。	ふれあい体験室 前 10分前集合

**お知らせ⑤ 民具体験の事前練習について**

9月よりボランティアによる民具体験のサポートの実施に先立ち、下記の内容で民具体験の事前練習を実施します。この機会にぜひご参加下さい。  
※詳細については8月号、ボランティア室の貼り紙をご確認ください。

日程	募集内容	場所
9/12(火) 10:00~12:00	<b>民具体験の事前練習</b>	
9/13(水) 10:00~12:00	運動の道具、洗濯の道具、着衣の道具について練習をします。	博物館実習室(1F)
9/20(水) 10:00~12:00	解説役と聞き役に分かれて二人組で実施予定です。	

**「港川人復元模型が語るもの」**  
山崎 真治 (人類担当)



図1 港川人復元模型比較

当館常設展の自然史部門展示室では、約2万年前の旧石器時代の人骨として著名な港川人の復元模型を2体展示しています。なぜ2体あるのでしょうか？

右側の模型は2007年の当館開館時に作成した模型です。当時、港川人は沖縄を含めた日本列島の祖先にある人々だと考えられていました。沖縄の旧石器人から縄文人や貝塚人へ、さらに現代の私たちにつながるといって「港川人」=祖先説が踏まえ、日本人的顔立ちに復元されています。

左側の模型は2014年に新しく作成した模型で、基本的な形状は同じですが、その後の港川人研究の進展を踏まえて、細部ではかなり雰囲気異なるものになっています。例えば、海部剛介氏らによる2011年の研究(Kaifu et al. 2011)では、港川人の下顎骨の形態が、縄文人とは大きく異なることが示されています。むしろ港川人は、オーストラリアのアボリジニやバブア・ニューギニアの人々(オーストラロ・メラネシア)に類似した特徴を持っており、縄文人や貝塚人といったその後の人々とは直接関連しないのではないかと考えられています。こうした研究成果を反映し、新しい模型では眉弓から眉間にかけての盛り上がりや、鼻の形状、髪の毛の色などにアボリジニ的特徴を取り入れて作成しています。また、近年のサキタリ調査の発掘調査成果にもとづいて、首にはツガイのビーズを連ねたネックレスをつけてみました。赤い大きなツガイはニシキツガイ、白い小さなツガイはヤカツガイ(類で、このようなツガイのビーズは地中海沿岸やオーストラリアの旧石器人の間でも利用されていたことが知られています。

人骨からは基本的な形状や筋肉の付き方などは復元できますが、表皮の状態や皮下脂肪の付き方、毛髪の色や性質等は復元できないため、さまざまな現代の情報から再現していくこととなります。このように、復元模型も研究の進展とともに変化していくのです。

一方、近年では港川人のDNAに関する研究も進展し、ミトコンドリアDNAの分析から、彼らがHaplogroup Mの祖先型にあたるDNA配列を持っていることが明らかになりました(Mizuno et al. 2021)。現代人集団の中にはこれと同じDNAは確認されておらず、港川人の直系子孫は途絶えているようですが、現代沖縄人の4人に1人がHaplogroup Mから派生したM7aというタイプのDNAをもっています。両者の間にどのような関連があるのか、あるいはないのか、今後の研究の進展が期待されます。

**歴史部門展示室**  
『重要文化財指定記念 銘河家文書と琉球国王朱印状』  
崎原 恭子 (歴史分野担当)

当館所蔵の「銘河家文書」と「琉球国王朱印状」が、古文書学及び琉球史研究上の学術的価値が高い資料として、2022年11月18日に国の重要文化財に指定され、2023年6月27日の管轄告示をもって正式に指定されました。これを記念して9月10日(日)まで、両資料を博物館常設展示室の歴史部門展示室で公開しております。

琉球国王朱印状は、琉球国王が役人等を任ずる際や、土地等を与える際に発給した公的な文書です。琉球国王の印(「首重之印」)が押されていることから、琉球王国時代の史料では「御朱印」「御印判」と記載され、琉球史研究上「辞令書」と呼ばれています。

このたび指定された古文書の内「銘河家文書」は、琉球国王朱印状(辞令書)3件と絵図1件の合計4件の資料群です。伊是名島出身で第二尚氏王朝の初代に当たる尚円王(金丸)の叔父から縁(銘河家に伝来し、琉球国王の名において1587年に伊平屋(伊平屋、伊是名島及び周辺諸島)の首里大屋(役人)に与えた所得や命じた賞納を示したもので、1736年に銘河家の七世、朝典、1741年に九世、朝義に銘河大屋(役人)の役職を与えたものと、1870年に金丸(尚円王)の一人の籍を埋めた「みほそ所」、現在の伊是名村諸見の一部が描かれた図があります。もう一方の「琉球国王朱印状」は、琉球国王の名において1595年に首里の下の地大首里大屋(役人)に与えた所得や特権を示したものです。

特に16世紀後半に作成された2つの琉球国王朱印状(辞令書)は、古琉球の時期に発給された現存数の少ない実物資料となります。この機会にぜひご覧ください！

**<展覧会情報>**  
展覧会名称：『重要文化財指定記念 銘河家文書と琉球国王朱印状』  
開催期間：2023年8月4日(金)～9月10日(日)  
開催場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館常設展示室 歴史部門展示室




図1 万曆十五年琉球国王朱印状(銘河家文書の内)(1587年)




図2 琉球国王朱印状<大首里大屋子充/万曆二十三年八月廿九日>

10月1日発行 第191号 (R5年10月)

**博物館**

**ボランティア 通信**

**お知らせ① 秋のボランティア全体会の開催について**

- ・10月17日(火) 14:00~15:00 講堂
- ・対象：博物館ボランティア

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班(直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② 10月教育普及関連催事**

日時	内容	場所
10/8(日) 13:30~17:00	<b>文化講座(考古)</b> ※当日受付 「令和5年度博物館企画展開館記念シンポジウム 琉球の海 倭寇の海」 講師：村木 二郎(国立歴史民俗博物館 准教授)、 定員200名 黒崎 敬(東京大学史料編纂所 准教授)他2名	講堂(3F)
10/12(土) 14:00~15:00	<b>常設展示室解説会(考古)</b> ※当日受付 講師：山本 正昭(考古担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前 にて30分前より受付
10/14(土) 9:00~13:00	<b>学芸員講座(地質)</b> 「ジオツアー 沖縄の地層とゆんたくしようよ! ~陸に残る泥の海と サンゴの海の跡」 講師：新山 楓大(地質担当)、宇佐美 真(博物館班班長) 定員20名	沖縄本島南館 (糸満市・八重瀬町)
10/28(土) 14:00~15:00	<b>バックヤードツアー(美術工芸)</b> ※事前申込10/21(土)~ 講師：伊達 拓郎(美術工芸担当) 定員10名	※ふれあい体験室前 にて10分前集合

※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

裏につづきます

**お知らせ③ ボランティア募集**

募集用紙をボランティア室に掲示しています。ご希望の募集内容がありましたら、お名前のご記入をお願いします。民具体験については、当日開始前に打合せを行います。詳細については、ボランティア室に掲示している募集用紙の内容をご確認ください。

日程	募集内容	募集人数	備考
10/25(月) 13:20~	<b>ふれあい体験室 IPW 清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	
11/15(水) 9:15~12:10	<b>民具体験</b> 南城市立大里南小学校 3年生 5クラス 149名	15名	当日開始 15分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
11/24(金) 9:15~12:10	<b>民具体験</b> 豊見城市立上田小学校 3年生 5クラス 160名	15名	
12/1(金) 9:30~11:40	<b>民具体験</b> 西原町立西原小学校 3年生 3クラス 106名	13名	当日開始 30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。

**ご報告① 団体見学サポートの様子**



写真1 倉について解説を聞いている様子  
学校法人カトリック学園海星小学校 6年生 (6月8日)



写真2 ふれあい体験室見学の様子  
学校法人カトリック学園海星小学校 6年生 (6月8日)



写真3 軽便鉄道について解説をしている様子  
オキナワインターナショナルスクール 1年生 (6月16日)



写真4 製糖工程について解説をしている様子  
オキナワインターナショナルスクール 1年生 (6月16日)

**見学サポートのご協力大変ありがとうございました！**

海星小学校の見学では、コロナ禍で様々な制限があった事もあり、とても賑やかなふれあい体験室を初めて見て感動しました。今後の見学サポートも楽しみになりました。また、急遽ふれあいのフロアに入ってしまったボランティアさんにもご協力大変ありがとうございました。(照屋)

**博物館**

11月1日発行 第192号 (R5年 11月)

ボランティア 通信

**お知らせ① ボランティア連絡会の開催について**

- ・11月21日(火) 15:00~16:00 博物館講堂
- ・対象：各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班 (直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② 11月教育普及関連行事**

日時	内容	場所
11/9(木) 14:00~15:00	<b>常設展示解説会(地質)</b> ※当日受付 定員 15名 講師：新山 楓大(地質担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前にて30分前より受付
11/11(土) 14:00~16:00	<b>学芸員講座(美術工芸)</b> ※当日受付 「首里城を救った男たち 伊東忠太と鎌倉芳太郎〜共同研究開始から100年〜」 定員 80名 講師：伊藤 拓郎(美術工芸担当)	博物館講堂室(1F)
11/18(土) 14:00~16:00	<b>文化講座(地学)</b> ※当日受付 「沖縄の美ら屋〜豊かな星文化にふれる〜」 定員 200名 講師：宮地 竹史(国立天文台石垣島天文台前所長)	講堂(3F)
11/18(土) 18:00~19:30	<b>企画展担当学芸員による展示解説会</b> ※当日受付 「令和5年度博物館企画展 琉球と倭寇の物語り」 定員 15名 講師：山本 正昭(考古担当)	企画展示室(3F) ※企画展示室前にて当日17:30から受付
11/25(土) 14:00~15:00	<b>バックヤードツアー(歴史)</b> ※事前申込11/18(土)~ 定員 10名 講師：宮城 修(歴史担当)	バックヤード ※ふれあい体験室前にて10分前集合

※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ③ ボランティア募集**

募集用紙をボランティア室に掲示しています。ご希望の募集内容がありましたら、お名前のご記入をお願いします。  
※募集の詳細についてはボランティア室に掲示している募集用紙をご確認ください。ガイドについては、**当日打合せ**を行いますので、内容のご確認をお願いいたします。

日程	募集内容	募集人数	備考
11/17(金) 9:00~10:00	<b>少人数館島校ガイド</b> 11/6(月)〆切 南大東村立南大東小学校 6年生 13名	4名	当日開始 15分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
12/6(水) 10:00~12:00	<b>民具体験</b> 11/26(日)〆切 南城市立玉城小学校 3年生 2クラス 72名	12名	当日開始 30分前より打合せを行います。
12/21(木) 9:10~11:10	<b>民具体験</b> 12/7(木)〆切 那覇市立小樽小学校 3年生 2クラス 65名	12名	当日開始 15分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
11/27(月) 13:20~	<b>ふれあい体験室 IPW 清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	

**ご報告① ボランティア教の全体会の様子について**




**解説ガイドボランティア 2名誕生 おめでとうございます！**

10月17日(火)には、総合展示部門解説ガイドボランティアの交付式が行われました。今回は新たに2名の解説ガイドボランティアが誕生しました。宇佐美班長からボランティア証を授与された後には、お二人から養成講座を修了した感想をお聞きしました。お二人とも様々な理由で免許の取得を待ち望んでいて、この度やっと取得することができたことでした。今後のお二人のご活躍を期待しています。これから博物館へのご支援のほどよろしくお願いいたします。

**ご報告② 夏休み！子どもフェスタ 2023の様子**

子ども達が習字を身近に感じてもらえたようで、大変嬉しく思います~。

ボランティアさん！ご協力大変ありがとうございました！

クバオーブを作ってみよう！

大城紗織学芸員

大崎ゆかり学芸員

伊藤拓郎学芸員

員のアクセサリーづくり

山崎真由学芸員

薄池亮平学芸員

動物の歯の石膏レプリカを作ろう！

新山楓大学芸員

子ども達と一緒に作業をして下さりありがとうございます。

カクタムリの不思議にせまってみよう！

南川章学芸員

ズームイン！砂粒のミクロの世界をみてみよう！

子ども達が習字を身近に感じてもらえたようで、大変嬉しく思います~。

習字を聞こう！旬の傑作りと習字体験

夏休みのサポート大変助かりました。ありがとうございます！



### 「伊東忠太さんについてご存じですか？」

伊禮 拓郎 (美術工芸担当)

今から100年前の1923年、沖縄文化研究に大きな足跡を残した伊東忠太と鎌倉芳太郎が沖縄文化に関する共同研究を始めました。このことを記念し、美術工芸部門展示室では11/19まで「首里城を救った男たち～伊東忠太と鎌倉芳太郎～」展を開催しています。

展示タイトルにある通り2人は首里城を救った男たちなのですが、何故か芳太郎にばかり注目が集まります。もちろん芳太郎の写真資料やノート記録などは、戦後の首里城や文化復興に大変大きな役割を果たしています。しかし、この1924年の首里城保護については、忠太の尽力が大きいです。

忠太は1867年に現在の山形県で生まれました。小さいころから美術に興味があったようですが、父親に反対され別の道を行くことになりました。何とが美術に近い世界を、との考えから工学の中でも建築の道に進むことを選び、建築研究者として大成していきます。内務省の役人として寺社の保護等を行った後、大学教員として教鞭をとるようになり、文化財保護法の先駆けである「古社寺保存法」(1897年制定)の整備などにも関わりました。

20代の若手研究者である芳太郎と出会ったのは、忠太に定年退職の文字が見え始めたころの話です。沖縄で教鞭をとっていた芳太郎は、授業の傍ら沖縄のあれこれを調査し、記録にまとめていました。その記録をみた忠太は重要性を見出し、共同研究を進めていくことになりました。1923年に出会った2人は、翌1924年から沖縄へ調査に行く計画を立てていました。

そんな矢先の1924年3月、芳太郎は首里城取り壊しの新聞記事を目にします。あわてて忠太の研究室に駆け込んだ芳太郎は、この一大事を報告します。すると、忠太は内務省神祇局に行き、首里城正殿取り壊しを中止するよう電報を打たせ、取り壊しは何かと阻止されたのです。

簡単に「取り壊し中止の電報を打たせた」と書きましたが、この裏には様々な力が働いていました。一番大きいのは、忠太が「古社寺保存法」の制定に関わっていたことです。古社寺を守る法律という性質上、神祇局の役人と関わることも多く、寺社建築やその保護の第一人者として顔が立ち位置したのです。また、忠太の叔父・平田東助は元内務大臣で、その名前は神祇局に絶大な影響力を持っていました。こうした力を利用し、神祇局長に取り壊し中止を迫り、電報を打たせたのです。神祇局長からするとぞろぞろしかつたことでしょう。

何となく、こうして首里城の取り壊しは阻止されたのです。さて、その後にはやはり忠太の尽力で首里城の保護・整備がなされていくのですが、なんとなんと、紙面ギリギリになってしまいました。続きは、11/11の私の学芸員講座で詳しく解説したいと思います。是非ご参加ください(笑)!

---

**<展覧会情報>**  
 展覧会名称: 「首里城を救った男たち～伊東忠太と鎌倉芳太郎～」  
 開催期間: 2023年8月22日(火)～11月19日(日)  
 開催場所: 沖縄県立博物館・美術館 博物館常設展示室 美術工芸部門展示室



一般財団法人  
**沖縄美ら島財団**  
 Okimura Chubu-shima Foundation  
 2023年11月1日 第190号

## 博物館 ボランティア通信

**ボランティアの皆様**  
 いつもお世話になっております。教育普及担当の石田です。  
 配属されて早4か月、講座やイベントで毎日目がまぐるしく、そして充実した日々を過ごしております。  
 先日はふれあい体験室ワークショップで講師のデビューもさせていただきボランティアの皆さんの支えのおかげで、無事にイベントを終えることが出来ました。改めて御礼申し上げます。  
 さて、11月には初めて担当をさせていただくイベントがございます。  
**沖縄県立芸術大学の学生さんによる琉球舞踊の公演、博物館屋外展示の民家にて行います。**  
 ぜひ皆様もお越しください!

---

### OkimU 秋のイベント

**おきげい 出前コンサート 琉球舞踊公演**  
 沖縄県立芸術大学の学生さんによる琉球舞踊の公演を、博物館屋外展示の民家にて行います。

【日程】11月5日(日)  
 【時間】①14:00～(13:45開場) ②16:00～(15:45開場) 各30分程度  
 【場所】屋外展示室(民家) ※雨天時エントランス

**おきみゆー誕生祭 2023**  
 今年はおきみゆーの誕生から16年目! おいしい音楽ライブや食のフェスティバルなど、楽しいイベント盛りだくさん!

【日程】11月1日(水)～11月3日(金・祝)

万国津梁の録プロジェクト 解体誌録 Vol.9  
 ウチナーンチュは茶じょーくー! お茶と「万国津梁」

【日程】11月3日(金・祝)  
 【時間】10:00～12:00(開場9:30)  
 【場所】3F講堂  
 【定員】200名 【参加費】無料

## 博物館 ボランティア通信

12月1日発行 第183号 (R5年12月)

**お知らせ① ボランティア連絡会について**

・12月19日(火)15:00～16:00 博物館講堂  
 対象: 各曜日のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館  
 博物館班 (直通)  
 TEL 098-851-5401  
 FAX 098-941-3650

**お知らせ② 12月教育普及関連催事**

日程	内容	場所
12/9(土) 14:00～16:00	<b>学芸員講座(民俗)</b> ※当日受付 「沖縄の生活における水と信仰」 定員80名 講師: 大城 沙織(民俗担当)	博物館講堂室(1F)
12/14(木) 14:00～15:00	<b>常設展示解説会(美術工芸)</b> ※当日受付 定員15名 講師: 藤原 あかね(美術工芸担当)	常設展示室 ※ふれあい体験室前にて30分前から受付
12/16(土) 14:00～16:30	<b>文化講座(人間)</b> ※当日受付 「旧石器時代の人間」展文化講座1「骨学セミナー-沖縄版」 定員200名 講師: 奈良 貴史(新潟医療福祉大学教授)、ほか2名	講堂(3F)
12/23(土) 14:00～16:30	<b>体験学習教室(人間)</b> ※事前申込12/5(火)～ 「お菓子を作りながら、旧石器時代を学んで食べよう!」 定員8名(小学生以下保護者同伴) 講師: 下島 結美(おかし作り考古学者)、澤浦 亮平(人芸担当)	博物館実習室(1F)
12/23(土) 14:00～16:00	<b>研究発表報告会</b> ※当日受付 「令和5年度 在外琉球王国文化財調査研究事業 報告会」 定員200名 講師: 藤原 あかね(美術工芸担当)、崎原 春子(歴史担当)	講堂(3F)
12/23(土) 14:00～15:00	<b>バックヤードツアー(地学)</b> ※事前申込12/16(土)～ 定員10名 講師: 宇佐美 賢(博物館班班長)	バックヤード ※ふれあい体験室前にて10分前集合

裏面につぎます

日程	内容	場所
2024/1/7(日) 14:00～16:30	<b>体験学習教室(人間)</b> ※事前申込12/12(火)～ 「体験実習 サクヤリ酒の味」 定員10名(小学2年生以下保護者同伴) 講師: 澤浦 亮平(人芸担当)	博物館実習室(1F)

※催事問合せ・申込: TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ③ 活動記録簿再開について**

ボランティア秋の全体会で周知の通り、11月15日より活動記録簿をボランティア室に設置しました。ボランティア活動をした際には、日付・活動時間の記入を忘れずよろしくお願い致します。  
 また、活動記録簿の再開に伴い、2021年11月より実施していた入室記録簿の記入は終了となりました。コロナ編でのボランティア活動へのご支援、コロナ対策へのご協力大変ありがとうございました。

**お知らせ④ ボランティア募集について**

ご希望の募集内容がありましたら、ボランティア室に掲示している募集用紙にお名前のご記入をお願いします。ガイド・民具体験については、**当日打合せ**を行います。詳細については、ボランティア室の募集用紙にてご確認をお願いいたします。

日程	募集内容	募集人数	備考
12/6(水) 9:30～12:00	<b>民具体験(再募集)</b> 南城市立玉城小学校 2クラス 72名	残り 5名	当日開始30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
12/21(木) 9:30～11:30	<b>民具体験(再募集)</b> 那覇市立小椋小学校 2クラス 65名	残り 5名	当日開始30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
12/23(土) 14:00～17:30	<b>体験学習サポート</b> ※12/19(火)募集一切 特別展関連催事の会場設置、使用器具の準備・片付けなどの作業	3名	実習室13:00集合。エプロン・三角巾持参。
12/26(月) 13:20～	<b>ふれあい体験室「PIF」清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	
2024/1/10(水) 調整中	<b>民具体験</b> 南城市立大里南小学校 1クラス 30名程度	7名	
2024/1/12(金) 9:30～11:30	<b>民具体験</b> 那覇市立銘苅小学校 3クラス 92名	13名	当日開始30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。

裏面につぎます

日程	募集内容	募集人数	備考
2024/1/17(水) 9:30~12:00	<b>民具体験</b> 那覇市立城岳小学校 3クラス 78名	13名	当日開始 30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
2024/1/18(木) 13:00~14:00	<b>少人数鑑賞ガイド</b> 国頭村立奥間小学校 6年生 13名	4名	当日開始 30分前より打合せを行います。

**お知らせ⑥ 年末年始休館について**

ボランティアの皆さま、今年も大変お世話になりました。当館は12月29日(金)~2023年1月3日(水)まで休館します。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

**ご報告① ボランティアサポートの様子**

10/20 渡嘉敷村立阿波連小学校

11/9 北大東村立北大東小学校

11/17 南大東村立南大東小学校

当日対応して下さいボランティアの皆さまありがとうございました。今後もボランティア活動へのご協力よろしくお願いいたします。

**博物館特別展 「旧石器時代の人類-海を越えた最初の人々-」について**  
博物館班 澤浦 亮平 (人類担当)

黒い背景にヒトの骨が並んだ一見ぎょっとしてしまうようなチラシが皆さんのお手元にも届いていると思いますが、それは今年12日から開幕する特別展「旧石器時代の人類-海を越えた最初の人々-」のチラシです。私は学生のころから本土の洞窟遺跡の調査に取り組んできましたが、旧石器時代にまでさかのぼり得るこうした保存良好な人類化石が見つかるのは国内では沖縄しかなく、当館の管理している人類学関連資料のなかでもとりわけ重要なものと考えこの写真を前面に押し出すことに決めました。この資料は、南城市サキ列洞遺跡の9,000年前より古い地層から見つかった国内最古級の埋葬人骨です。形態学、年代学、遺伝学などの様々なアプローチで現在研究を進めている途上ではありますが、港川人のように、このサキ列洞人のこともこれから皆さんに親しんでいただきたいという思いで今回関係者の方々のご理解を得て公開いたします。

また、エントランスホールでは、最初に海を越えて琉球列島にやってきた人々がどのような航海を行ったのかを実験的に検討した「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」(国立科学博物館)を紹介し、プロジェクトで製作・使用された丸木舟「スキメ」をお借りして展示します。このほかにも、人類史のなかでも長い期間を占める旧石器時代について、化石人類の復元模型、動植物化石、狩猟具、加工品、装飾品、食糧残渣などを紹介し、この時代が私たちの身体的、文化的な基盤を形作ったということをお伝えしたいと思っています。

関連催事として、12/16(土)の文化講座1では骨学のスペシャリストをお招きしたオムコバ形式の骨学セミナー、12/23(土)にはお菓子作りしながら動物化石を学ぶワークショップ、年明け1/7(日)にはサキ列洞の旧石器人が好んだモクズガコを味わうワークショップ、1/20(土)には午前中に映画「スキメ」の無料上映会、午後には文化講座2として港川人研究のスペシャリスト3名をお招きする「新しい!港川人の時代」、2/10(土)には私の学芸員講座を企画しています。各催事では、ボランティアの皆様にもお力添えをいただくことになるとは思いますが、一緒に展示会を盛り立てていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



実験航海のために製作・使用された丸木舟「スキメ」

<展示会情報>  
展示会名称: 特別展示「旧石器時代の人類-海を越えた最初の人々-」  
開催期間: 2023年12月12日(火)~2024年2月12日(月)  
開催場所: 沖縄県立博物館・美術館 特別展示室・企画展示室(3F)

1月1日発行 第194号 (R6年1月)

# 博物館 ボランティア 通信

**お知らせ① ボランティア連絡会について**

1月16日(火)15:00~16:00 博物館講座室  
対象: 各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班 (直通)  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② 1月教育普及関連催事**

日程	内容	場所
2024年1/7(日) 14:00~16:30	<b>体験学習復讐(人間)</b> ※受付終了 「体験食食学習 サキタリ洞の味」 定員10名(小学2年生以下保護者同伴) 講師: 澤浦 亮平(人類担当)	博物館実習室(1F)
1/11(木) 14:00~15:00	<b>常設展示解説会(民俗)</b> ※当日受付 定員15名 講師: 大城 沙織(民俗)	常設展示室 ※ふれあい体験室前にて30分前より受付
1/13(土) 14:00~16:00	<b>学芸員講座(地学)</b> ※当日受付 沖縄の石ころと島人の生活 ~島々の地形・地質から考える~ 定員80名 講師: 宇佐美 賢(博物館班)	博物館講座室(1F)
1/20(土) 10:00~12:00	<b>「旧石器時代の人類」展 関連催事</b> ※当日受付 映画「スキメ」上映会 定員200名 無料	講堂(3F) (9:30開場)
1/20(土) 14:00~17:00	<b>文化講座(人間)</b> ※当日受付 「旧石器時代の人類」展文化講座2 「シンポジウム『新しい!港川人の時代』」 定員200名 講師: 海部 陽介(東京大学総合研究博物館 教授)、ほか2名	講堂(3F)
1/27(土) 14:00~15:00	<b>バックヤードツアー(歴史)</b> ※事前申込1/20(土)~ 定員10名 講師: 嶋原 恭子(歴史担当)	バックヤード ※ふれあい体験室前にて10分前集合

裏面につづきます

日程	内容	場所
2/8(木) 14:00~15:00	<b>常設展示解説会(地学)</b> ※当日受付 定員15名 講師: 宇佐美賢(博物館班)	常設展示室 ※ふれあい体験室前にて30分前より受付
2/10(土) 14:00~16:00	<b>学芸員講座(人間)</b> ※当日受付 「旧石器時代の人類」展をもっと楽しむ」 定員80名 講師: 澤浦 亮平(人類担当)	博物館講座室(1F)

※催事問合せ・申込: TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

**お知らせ③ 活動記録簿再開について**

ボランティア秋の全体会で周知の通り、11月15日より活動記録簿をボランティア室に設置しました。ボランティア活動をした際には、日付・活動時間の記入を忘れずよろしくお願いいたします。

**お知らせ④ ジャンプボックスのテスト運用について**

12月よりジャンプボックスを再開しています。2024年1月も引き続きテスト運用を行います。金曜日、1日2回 (①10:30~12:00、②14:00~15:30)を予定しています。ガイドライセンスをお持ちの方はぜひともご参加ください。  
日程: 1/12(金)、1/19(金)、1/26(金)

**お知らせ⑤ ボランティア募集について**

ご希望の募集内容がありましたら、ボランティア室に掲示している募集用紙にお名前のご記入をお願いします。ガイド・民具体験については、**当日打合せ**を行います。詳細については、ボランティア室の募集用紙にてご確認をお願いいたします。

日程	募集内容	募集人数	備考
2/2(金) 調整中	<b>民具体験</b> 那覇市立小椋南小学校 3クラス 97名	12名	当日開始 30分前より打合せを行います。通用口よりご来館下さい。
1/22(月) 13:20~	<b>ふれあい体験室 1F 清掃</b> 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	

**ご報告① ボランティアサポートの様子**



12/1 西原町立西原小学校  
12/1 西原町立西原小学校  
12/6 南城市立玉城小学校  
12/6 南城市立玉城小学校  
12/21 那覇市立小椋小学校

当日対応して下さいましたボランティアの皆さまありがとうございました。今後もボランティア活動への協力よろしくお願いいたします。

**令和5年度 沖縄県立博物館・美術館移動展 in 国頭村**

博物館班 平川信幸（教育普及担当）

- 趣旨**  
沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術への理解を深めることができるよう、これまで収集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきました。しかし、島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい状況にあります。移動展は、離島や遠隔地の方々に収集資料の展示をみていただくことによって、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施します。
- 体制**  
主催：沖縄県立博物館・美術館、（一財）沖縄美ら島財団  
後援：国頭村教育委員会
- 実施地域** 国頭村
- 会期** 令和6年1月26日（金）～28日（日）  
時間 9時から午後5時（1月26日は午後1時半開会式）  
※展示設置期間 1月23日（火）～25日（木）  
※展示撤収期間 1月29日（月）～31日（水）
- 会場**  
国頭村ふれあいセンター（2F 講堂）：展示会場  
国頭村ふれあいセンター（1F 会議室 20名）：文化講座  
国頭村ふれあいセンター（1F 多目的ホール 30名）：ミニシアター  
※すこし、距離がありますが沖縄島内なので、お時間があふればぜひ足をお運びください。



**博物館** 2月1日発行 第195号（令和6年 2月）

**ボランティア 通信**

**お知らせ① ボランティア連絡会の開催について**

- ・2月20日（火）15:00～16:00 博物館講座室
- ・対象：各曜日班のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館  
博物館班（直通）  
TEL 098-851-5401  
FAX 098-941-3650

**お知らせ② 2月教育普及関連催事**

日程	内容	場所
2月8日（木） 14:00～15:00	常設展示解説会（地学）※当日受付 定員15名 講師：宇佐美 賢（博物館班班長）	常設展示 ※ふれあい体験室前にて30分前から受付
2月10日（土） 14:00～16:00	学芸員講座（人類）※当日受付 『旧石器時代の人類』展をもっと楽しむ 定員80名 講師：澤浦 亮平（人類担当）	博物館講座室（1F）
2月17日（土） 14:00～16:00	文化講座（美術工芸）※当日受付 『国宝に指定された尚家継承資料』 定員200名 講師：外間 政明（那覇市文化財課）	講堂（3F）
2月24日（土） 14:00～15:00	バックヤードツアー（考古）※事前申込2/17（土）～ 定員10名 講師：山本 正昭（考古担当）	バックヤード ※ふれあい体験室前に10分前集合

※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200（県立博物館・美術館 代表）

**お知らせ③ 臨時休館のお知らせ**

このたび、当館施設の電気工事に伴う停電により、27日（火）は臨時休館となりました。施設の入りに関しては、26日（月）は全館立入禁止、27日（火）は入館可となります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【当初】 2月26日（月）休館日  
【変更】 2月26日（月）休館日 ※全館立入禁止  
27日（火）臨時休館日 ※13:00以降入館可

**お知らせ④ 「ボランティア登録申請書」の提出**

「令和6年度ボランティア登録申請書」をご自宅まで発送しました。次年度も継続して博物館の活動にご協力いただける方は、申請書に必要事項をご記入の上、下記の方法にてご提出をお願いします。

申込期間：2024年2月5日（月）～2月29日（木）まで  
提出方法：申請書提出Box（ボランティア室）・郵送

**お知らせ⑤ ガイドミーティングの実施について**

12月よりジンプンボックス再開に向けての試験運用開始に伴い、「ガイド基礎」を受講したボランティアを対象にガイドミーティングを行います。対象者は下記の日程にご参加をお願いいたします。

日程：2月20日（火）14:00～15:00 博物館講座室  
対象：解説ガイドボランティア

**お知らせ⑥ ボランティア募集**

日程	募集内容	募集人数	備考
2/26（月） ↓変更 2/27（火） 13:20～15:00	ふれあい体験室 IPW 清掃 展示室のほこり落としなどの作業	5名程度	・電気ケーブル工事に伴う館内停電のため日程変更。

沖縄1935 - 現代によみがえる戦前の沖縄 -

博物館班 宮城 修 (近現代担当)

博物館常設展示の歴史部門展示室では、令和5年11月1日～令和6年3月3日の日程で特集展「沖縄1935」を開催しています。本展覧会では、1935年に沖縄県内各地で撮影された写真約80点を、I期糸満編、II期古謝編、III期那覇編、IV期久高島編の4期に分けて展示し、当時の人々の生き生きとした生活の様子を紹介しています。これらの写真は、1935年に大阪朝日新聞社会部の守山義雄記者と藤本謙カメラマンが県内各地取材した際に撮影したもので、同新聞において「海洋ニッポン」(全10回、7月13日～22日)という連載で紹介されました。2013年、朝日新聞大阪本社の新社屋移転に際し、旧社屋の地下倉庫に人知れず眠っていたネガフィルムが偶然発見され、戦前の沖縄の人々の生活風景が現代によみがえりました。サバコを巧みに操縦し一貫で漁に勤む糸満漁師とその漁獲を市場で商うために買い取る女性達、一人前の漁師になるべく漁の手伝いやサバコの操船を練習する子ども達、那覇の市場で野菜・米・乾物などを高い女性とその賑やかな様子、久高島の自然・風景など島の風景、サトウキビの生産向上に成功し、県下の模範集落と称された古謝(現：沖縄市)の様子などが写し出されています。去る沖縄戦では、多くの尊い人命だけでなく、貴重な歴史資料や文化財等が焼失あるいは散逸してしまいました。このような状況の中、戦前の人々の生活風景が写真記録として残されていることは、まさに奇跡としか言いようがありません。何気ない日常の風景から人々の息遣いが聞こえるような写真は、タイムスリップしたかのような感じがします。

1935年は沖縄戦のちょうど10年前にあり、社会全体が戦時体制下に組み込まれていく時代でした。1931年の満州事変により日本は十五年戦争に突入り、1937年の国民精神総動員訓令とそれに続く翌38年の国家総動員法により国民生活の大部分が戦争協力の名の下、統制されていきました。「沖縄1935」の中にもこのことがうかがえる写真があり、古謝の青年団を中心とした耕作隊の活動からは戦争に向けた農産物の増産体制づくりが、糸満における海外出稼ぎの分布図を見る子ども達の写真からは国の南進政策を推進する一頁目が垣間見えるのではないかと思います。戦時体制下という社会背景ではありますが、人々が選んで生活している様子を感じることが出来る貴重な写真記録となっております。是非、ご覧ください。



写真1 魚を担いで (古謝) 朝日新聞社



写真2 世界地図を眺める子どもたち (糸満) 朝日新聞社

博物館 ボランティア 通信

3月1日発行 第197号 (R6年3月)

お知らせ① ボランティア連絡会の開催について

- ・3月19日(火)15:00～16:00 博物館講座室
・対象：各曜日のお世話係、分野別勉強会の代表

沖縄県立博物館・美術館
博物館班(直通)
TEL 098-851-5401
FAX 098-941-3650

お知らせ② 3月教育普及関連行事

Table with 3 columns: 日程, 内容, 場所. Includes events like 学芸員講座(歴史), 琉球王国文化遺産集積・再興事業 報告会, 常設展示解説会(歴史), 文化講座(長巻), and バックヤードツアー(地質).

※催事についての問合せ・申込：TEL 098-941-8200 (県立博物館・美術館 代表)

お知らせ③ 優良展覧関連催事

令和5年度企画展「琉球と倭寇のもの語り 海を越える人々」の関連催事として、慶良間諸島国立公園指定10周年記念ミニ企画展を阿嘉島にて開催します。国立公園10周年という節目を迎えるにあたり、海を越えた人々と琉球列島の島々が果たしてきた役割と琉球の大交易時代における東シナ海の歴史的な背景を読み解くとともに、現在のすがたを見つめ直し、改めて慶良間諸島の魅力を発信する内容となっています。ミニ企画展「琉球と倭寇のもの語り海を越える人々」
期間 2024年2月17日(土)～3月23日(土) 9:00～17:00
展示場所 さんごゆんたく館(座間味村阿嘉島)



Table with 3 columns: 日程, 内容, 場所. Lists events for the 10th anniversary of the National Park, including a lecture and field tours.

お知らせ④ 「博物館ボランティア(第10期)」募集

沖縄県立博物館・美術館では、地域の方へ自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動の活性化、来館者へのサービスの向上、多様化するニーズへの対応を目指しています。つきましては、3月1日より博物館ボランティア(第10期)を募集します。博物館活動へ興味関心がある方へぜひ周知をお願いします。募集内容の詳細については、当館HPをご覧ください。
申込期間：2024年3月1日(金)～31日(日)まで

お知らせ⑤ ボランティア募集

Table with 3 columns: 日程, 募集内容, 備考. Details recruitment for a cleanup activity on March 18th.

ご報告① 移動展無事に閉幕しました!

Collage of photos and text reporting on the successful conclusion of a mobile exhibition. Includes photos of people at a truck, a field tour, and a meeting, with accompanying text like 'トラックから収蔵品や展示道具を搬入中' and 'フィールドツアー(新山・宇佐美学芸員)'.

## 令和5年度を振り返って

宇佐美 賢（博物館班班長）

ボランティアの皆さま、博物館班の宇佐美です。月日が過ぎるのは、本当に早いもので、今年度もあと僅かとなりました。今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の法的取扱いが変わり、その後は完全にアフターコロナの世界となりました。次第に県内外からだけでなくインバウンドのお客様も増加して今年度の来館者数は、久しぶりに40万人を超える勢いです。



2023/5/23 ボランティア養成講座

こうした中、ボランティア活動では、シンポジウム等、復活した取り組みがありました。国語村で行われた移動展では、多くのボランティアの皆様にお世話になりました。



2023/10/14 ショッピング沖縄の地産

様々な活動がコロナ禍前の状態に戻り、嬉しさの反面、久しぶりの事も多く、戸惑われた事も多々あったかと思えます。



2024/1/13 学芸員講座（地学）

さて、一つお願いがございます。皆様へボランティア継続等の手続きのご案内が届いているかと思えます。継続の検討と併せて、皆様のお知り合いに新規でボランティアを希望される方がいらっしゃるとしたら、3月末までにご紹介いただきたくお願いいたします。ボランティアの人数は少しずつ減少傾向にあります。老若男女問わず、いらっしゃるようでしたら、ぜひご紹介ください。



2024/1/28 移動展 in 国語 フィールドツアー

最後になりますが、今年度も大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。今後ともより良い博物館となりますよう、お力添え下さいますようよろしくお願い申し上げます。 宇佐美

# XI その他

## 1 移動展

- ① 名称：第14回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 国頭
- ② 開期：令和6年1月26日（金）～28日（日）
- ③ 時間：午前9時～午後5時
- ④ 開催地：国頭村（国頭村民ふれあいセンター）
- ⑤ 対象：一般
- ⑥ 観覧料：無料
- ⑦ 主催：沖縄県立博物館・美術館、国頭村教育委員会、  
沖縄美ら島財団
- ⑧ 後援：国頭村村教育委員会



### (1) 趣旨

沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術を正しく認識できるよう、これまで収集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきた。しかしながら島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい現状にある。移動展は、離島や遠隔地の方々に収集資料の展示をみていただくことによって、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施する。

### (2) 展示内容

#### ① 博物館展示

- 「みんなの進化展」mini・・・2023年の夏開催された進化展のminiバージョン。生物の標本を中心に化石が展示された。
- 「沖縄の自然、歴史、文化」・地学・歴史・民俗・考古・教育普及に関する総合展示
- デジタルミュージアム動画コンテンツ上映・・・ウチナーの民話上映
- 国頭に関する資料映像資料（海邦国体関係）

#### ② 美術館展示

- 「展覧会展示パネル」・・・これまでの展覧会概要パネルの展示
- 《Now・・・(1)》(川平恵造)、《八重山風景》(大嶺政寛)の精細な複製を展示。



### (3) 総入館者数 245 人

内訳

- 26日（金）/ 46名（70歳以上0名、一般38名、高大0名、小中8名、未就学児0名）
- 27日（土）/ 110名（70歳以上0名、一般70名、高大0名、小中32名、未就学児8名）
- 28日（日）/ 92名（70歳以上0名、一般47名、高大0名、小中36名、未就学児9名）





① 沖縄県立博物館・美術館 館長トークイベント「地図を使って国頭についてゆんたくしよう!!」

日 程：1月26日（金）19:00～21:00（18:30 受付）

講 師：里井 洋一（館長）

対 象：一般

参 加：15名（定員30名）

参加費：無料

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階



② 「ワイヤーアート」・針金で立体をつくろう・

日 程：1月27日（土）10:00～12:00（9:30 受付）

講 師：玉城 早苗（教育普及担当）

対 象：小1～中3

参 加：2名（定員10名）

参加費：400円

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階



③ 「みんなの進化論入門・進化の舞台 琉球列島」

日 程：1月27日（土）13:30～15:30（13:00 受付）

講 師：菊川 章（生物担当）

対 象：一般

参 加：17名（定員30名）

参加費：無料

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階



④「フィールドツアー」

日 程：1月28日（日）12:00～15:00（11:30 受付）

講 師：新山 颯大（地質担当）

場 所：国頭村・沖縄石の文化博物館

対 象：小3～

参加者：14名（定員20名）

参加費：100円（保険代）



⑤「ふれたい博士のびんがたデザイン」

日 程：1月28日（日）

・10:00～11:00・11:00～12:00、

・14:00～15:00（各回10分前受付）

講 師：新垣 麻乃（沖縄美ら島財団 教育普及担当）

対 象：5才以上

参加者：20名（定員30名）

参加費：600円

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階





⑥「吉屋チルー物語」上映（98分）

日 程：1月26日（金）、27日（土）、28日（日）  
・ 10:00～11:38・14:00～15:38

参加者：24名（合計人数）

参加費：無料

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階



⑦ 移動展展示解説会

日 程：1月26（金）14:00～15:00、27（土）9:00～11:00

講 師：宇佐美 賢（博物館班長）、平川 信幸（教育普及）

対 象：一般

参加者：53名（合計人数）

会 場：国頭村民ふれあいセンター1階



## 2 職場体験

令和5年度は、小学校1校、高等学校2校10名を受け入れた。高等学校の生徒たちは、もぎりやミュージアムショップでの接客業務や情報センターでの資料整理他などを体験した。また、小学校の児童と高等学校の生徒は博物館・美術館職員による学芸業務の紹介やバックヤード見学なども実施。博物館・美術館に関わる様々な職種を体験することができた。

体験内容: もぎり (入場券の確認)、ふれあい体験室 (ワークショップの準備)、ミュージアムショップ (接客、商品の管理)、情報センター (新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、博物館・美術館班 (バックヤードおよび学芸業務の見学)

受入校: 3校10人 (小学校1校、高等学校2校)

- ① 沖縄県立沖縄水産高等学校2学年 (3名) 7月11日 (火) ~ 7月13日 (木) (3日間)
- ② 那覇市立松川小学校 6学年 (3名) 8月16日 (水)
- ③ 沖縄県立沖縄工業高等学校2学年 (4名) 9月20日 (水) ~ 9月22日 (金) (3日間)



### 3 教育普及資料の活用

#### (1) 学校団体貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	沖縄県立大平特別支援学校	けんぱくキット「むかしむん」	歴史	5月19日～5月22日
2	沖縄県立那覇みらい支援学校	けんぱくキット「むかしむん」 けんぱくキット「ちむドンドン」	社会科	12月6日～12月12日
3	沖縄県工芸振興センター	ふれあい体験室 着物6領	講演会	1月17日～2月6日
4	那覇市立松島小学校	けんぱくキット「むかしむん」	社会科	2月1日～2月5日
5	ガジマル保育園	「豆腐作りキット」	ゆし豆腐作り	2月6日～2月13日
6	那覇市立真嘉比小学校	けんぱくキット「むかしむん」	社会科	2月16日～2月22日
7	那覇市立高良小学校	けんぱくキット「むかしむん」	社会科	2月27日～3月4日

博物館の教育普及関係資料等を貸出ている。令和5年度の貸出団体は7件であった。

図 1 - ① 資料利用申請書 第 5 様式

第 5 様式 (第 4 条関係)

資料利用申請書  
(教育普及資料の借用)

令和元年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： 印  
申請者 団体名： (担当者氏名 )  
住 所：〒  
TEL：  
FAX：  
E-mail：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
希 望 日 時 ・ 期 間	年 月 日 ( 時 ) ~ 年 月 日 ( 時 )		
行 事 名		参加人員	
目 的			
資 料 名	数 量	備 考	
1.	1		
2.	1		
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用にあたっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
  - ⑥貸与期間は 1 週間以内とする。
  - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
  - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないように取り扱いに十分留意すること。
  - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

## 民具借用にあたってご注意いただくこと

### 1, 丁寧な扱いを心がけてください

民具は自然由来の素材で作成されているものが多く、破損しやすいです。  
特に着衣の道具は、ニットなどの素材が引っかかることがあるためご注意ください。

### 2, 博物館の防虫対策・防カビ対策にご協力ください。

博物館の所蔵品は、虫・カビなどの害に弱いため、それらの影響を受けないように館内の環境（温度・湿度）を一定に保ち、また、外部から虫などの持ち込み・虫などを誘引するもの（食べ物・植物など）の排除を行っています。害虫が発生してから駆除する考え方もありますが、被害が拡大してしまうことと、薬剤が収蔵品に影響を与える可能性があるため、近年では予防対策の徹底を行う方法が主流になっています。

具体的には、以下のような対策を行います。

- ①飲食を博物館の中で行わない・飲食物を持ち込まない。
- ②動物・植物・土を持ち込まない。
- ③カビなどが発生しやすい状況を作らない（ほこりを溜めない、湿度調整する、乾燥させる）
- ④汚染されたものとは隔離する

学校は給食や弁当、そして児童の水筒、プランターなど、博物館では極力避けているものとの接触が想定されます。民具の保管場所には十分にご注意下さい。

特に、水を使うターレー（洗濯の道具・たらい）は乾燥させたうえでの返却をお願いいたします。

### 3, アルコール消毒をした場合の対応

民具をアルコールで拭いて消毒することは可能です。ただし、消毒液の水分が多いため、消毒後にそのまま衣裳ケースやビニール袋に入れるとカビの原因となります。  
消毒後は民具の乾燥をご確認のうえ、収納をお願いします。

### 4, 何かトラブルが発生した場合は、博物館へご連絡ください

# けんぱくキット

「けんぱくキット」は、博物館が学校をはじめとした各施設に貸し出しを行っている学習教材です。

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum



- 脱穀キット**
  - とうもろこし (唐箕)
    - 取り取った稲の穂を投 (こ) いで (もみ) にする、脱穀機の一つ。踏板を踏ると、こぎ歯が自動的に連続回転するので、稲や麦の束を押し付けるとこから子実(しじつ)をこぎ落とすことができる。2台 (高さ×たて×よこ 62.5cm×69.5cm×65.0cm 約30kg)
  - 足踏み脱穀機
    - 脱穀板に足を利用して穀物などを除去するための道具。唐箕(とうもろこし)の上部に少しづつ脱穀を落下させ、糠から重を送って(まわ)すなど使い易い穀物を除去します。
    - 10脚 (高さ×たて×よこ 104.5cm×93.5cm×42.7cm)
  - クルマンボー
    - 強い力を振り、長い棒を振りまわして大豆や麦をたたいて脱穀する。
    - 10本 (長い棒) 127.5cm (短い棒) 73.0cm
- サトウキビ絞りキット**
  - 三脚式サトウキビ搾り機
    - 上部に突き出た部分に棒を通しローラーの中央にさとうきびを挟み、棒を回すと回転したローラーからサトウが押し出されてくる。
    - 2台 (高さ×たて×よこ 90.0cm×110.0cm×80.0cm) (重量 約20~30kg)
    - ※注意事項 大型重量物につき借用の際には大人の方複数人での運搬をお願いします。
- 火起こしキット**
  - 火起こし器
    - 土台に使う火きり板の穴が開いているところから火起こし器の先端を当てる。
    - 10脚 (高さ×よこ 62cm×61cm)
  - 火きり板
    - 火きり棒を棒を回して、摩擦を与えて熱する。
    - 10枚 (厚さ×よこ 5cm×30cm)
  - 火種
    - 火きり板の下に挟み、火きり板から出てきた木粉を火種に移し火を起こすことができる。
- 洗濯キット**
  - 洗濯たらい
    - 洗濯するために水を振る道具。
    - 5つ (高さ×よこ 25cm×55cm)
  - 洗濯板
    - たらいに張った水に洗濯板を半分入れ、洗濯板に衣類を載せれば、石鹸をつけて手で洗えます。
    - 10枚 (たて×よこ 23cm×50cm)
- 豆腐作りキット**
  - 石うす
    - 上と下の白のかみあう面に溝が彫られた、豆腐や餅を作る大豆や米、麦などをすり潰すための道具。上部にある穴から穀物を入れ、側面部分の穴に入れたハンドルを時計針回りに回す。6個 (高さ×よこ 22cm×33cm)
  - 豆腐ウーキー
    - 20本 (高さ×よこ 35cm×48cm)
    - うすで熱した大豆などを受けとめる桶。この桶の上にアジマー(十字の板、石うすを置く)を置き、その上に石うすをのせて大豆をすりつぶす。3個
    - その他の道具 豆腐桶、アジマー、ハンドル、布、シンメナービ(網)、漉(く)、漉(く)、釜
- シンメナービキット**
  - シンメナービ
    - 円錐状の丸底の大型漉。漉は漉の蓋(カマタ)と木製の蓋がある。
    - 10個 (高さ×直径 24.5cm×57.5cm)
  - 大型コンロ
    - シンメナービ用のコンロ。4個
    - ※ガスは使用者負担です。
    - その他の道具 漉、巨大しゃもじ、ひしゃく

**けんぱくキット活用までの流れ**

- STEP1: 博物館教育普及担当までご相談 (申請書は電話・FAX・メールにて送付)
- STEP2: 申請書を博物館教育普及担当へ提出 (貸出期間・貸出条件・学校へ送付) (許可書発行・学校へ送付 (借用期間の延長は1週間以内))
- STEP3: 学校担当員が取り取り
- STEP4: 各校でキット利用後、担当者ご返却 (申請書と申請書の写しを博物館へ送付)

【お問い合わせ】 博物館教育普及担当  
Tel: 098-941-5401  
Fax: 098-941-3650

【開館時間】 9:00~18:00(金・土は20:00まで) 米入場は閉館の30分前まで

【休館日】 月曜日(月曜日が祝日にある場合は開館)、翌平日が休館) 年末年始

MAP 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

## けんぱくキットリーフレット・おもて

## 貸し出し教材で授業充実!

「けんぱくキット」とは、沖縄県立博物館・美術館が無料で貸出している学習教材です。

### ちむドンドン

紙芝居、バーランクに三線や四つ竹、全8種類の沖の楽器を体験できます。

紙芝居・紙芝居のケース  
「カチャーシーで踊ろうよ!」この紙芝居に合わせて、たくさん楽器を鳴らしながら、踊りながら遊んでいく、読み手が導くような形式になる。1セット

三線・爪  
ブルーとピンクのオリジナル三線(木製)は、リード楽器としての役割を果たす。三線専用のため、人差し指にはめて軽くにぎりを強く叩くことができる。2セット

サンバ(三板)  
人差し指、中指、薬指ではさみ、もう片方の手でリズムに合わせて鳴らす。達人は連打もできる。6セット

四つ竹  
竹についているゴムを親指と中指をはさみ、手のひら全体で竹を打ち鳴らす。本来は両手にはめる。5セット

着物・帯  
紙芝居の読み手が着用する着物と読み手専用の帯(赤・青の帯)、腰ひも。2セット

銅鑼(ドラ)  
読み手の、「はじまり、はじまり〜」紙芝居の最初に響きをつける役割。専用のバチで鳴らす。1セット

長筒太鼓  
小さな鼓は全て、むきにおいて叩くことが可能なサイズ。小さいが音が出るので、おもいきり叩いてOK。1セット

締太鼓  
二冊目に大きな太鼓。赤い帯に指をつけて叩く。むきの上置において使用することも可能。1セット

### バーランク

三種類の太鼓なかも一巻軽く、片手でも扱いやすい。太鼓の裏側に指先を付けて、バチで叩く。2セット

太鼓専用のバチ類  
響力のない子や手汗に症状があり、バチを上手く握れない子が太鼓を叩くときに使う。指を穴に入れておけることで、より太鼓が叩きやすくなる。6種類

笛  
笛。音を鳴らすのは難しく、笛を両手に持って、息を吹けばOK。1本

### 骨スーツ

楽しみながら体のしくみについて学べるキットです。骨がプリントされた全身スーツを借用しながら、動かすことで、骨が動く様子などについて学ぶことができます。また、動物の骨ハナレを見ながら、それぞれの動物の姿をなぞることで、人間と動物の体のしくみの違いを学習することもできます。

骨スーツ  
骨のイラストがプリントされた全身スーツ。洋服の上から使い、手・足の部分をマジックテープで簡単に止めることができます。骨の位置などを学ぶ事ができます。  
170cm2着 155cm2着 130cm2着 110cm2着  
90cm 1着 計9着

手袋・靴下  
骨のイラスト入りの手袋と靴下。手の甲の骨、足の甲の骨の形を確認することができます。

動物骨ハナレ  
動物の骨と、ヒトの骨を比べることができるハナレ。骨スーツを借用したまま、動物の骨の真実を知ることができ、ヒトと動物の骨の違いを比べて、マウスネットの骨を貼り付けて、骨の違いを視覚的に学習することができます。授業では黒板に貼って、「マウスネット」と合わせて使用すると、効果的に学習を進めることができます。

マグネットの骨・骨めりえ  
腕の骨、脚の骨など、7部分の骨をピックアップし、部分ごとに色分けされたマグネット。「骨めりえ」の高さ合わせや、骨の正しい形や向きなどについて見ながら、マグネットが貼られているので、それぞれの骨をヒトと動物で比べることができます。「動物骨ハナレ」の骨の大きさと一緒に合わせて使用可能。

ワンポイントボード  
マグネットとヒトのココロと、ヒトの手のひらの骨の違いが解説されたボード。「動物骨ハナレ」では見えない、手の指の骨のつながりや骨のつながりなどが、説明の明瞭に利用可能。

「骨の科学展」の解説本  
2010年に県立博物館・美術館で開催された「骨の科学展」の解説本。ヒトと動物の骨の真実や、動物の骨の骨格、骨に繋がる骨まで、詳しくお話ししている解説本なので、授業で使える話題が豊富に詰まっています。1冊

## けんぱくキットリーフレット・中身

## 4 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。まず、民俗部門解説展示ガイドは、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）において教育普及担当とボランティアが調整しガイドを実施した。今年度は、合計6校52名を受け入れた。また、「総合展示部門」のガイドは、新型コロナウイルス感染拡大防止のためA・Bコースは引き続き活動休止となり、指定管理者のスタッフによるCコース「沖縄の歴史を知る10分ガイド」を24団体1,259名に実施した。ジンプンボックスによる活動は12月～1月にテスト運用を行い、3月から本格的に再開した。

### (1) 民俗部門解説ガイド実施内容

- ① 実施日：開館日の9:00～16:00
- ② 所用時間：15分～30分
- ③ 対象：県内の離島をはじめとする20名以下の小学校・中学校・高等学校
- ④ 受付方法：事前申込
- ⑤ 参加費：無料
- ⑥ 内容：3種類のメニューから選ぶ。
  - ・Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」  
見学マナーと博物館常設展示室<ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ>を案内。
  - ・Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」  
見学マナーと博物館常設展示室<アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食>を案内。
  - ・Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」  
見学マナーと博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）を案内。

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできないが、他の分野の展示物の見どころをお話することは可能。（ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度。）

### (2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

- ① 実施日：開館日の9:00～16:00
- ② 所用時間：30分～60分
- ③ 対象：県内外の一般・修学旅行団体
- ④ 受付方法：事前予約
- ⑤ 参加費：無料
- ⑥ 内容：3種類のメニューから選ぶ。
  - ・Aコース【30分】「総合展示部門：10～100名以内」  
総合展示部門の展示資料の前で沖縄の歴史を簡潔に学ぶことができる。
  - ・Bコース【30分】「ジンプンボックス\*：100名以上」  
おすすめの展示資料の前でボランティアが来場者へ解説を行う。
  - ・Cコース【10分】「沖縄の歴史を知る10分ガイド」  
展示室に入る前に別室で沖縄の歴史の流れを簡潔に解説する。

「民俗部門解説ガイド」実施団体

回数	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア数
1	授業	沖縄県	6月2日(金)	海星小学校	生徒	14	2
2	修学旅行	沖縄県	6月16日(金)	オキナワインターナショナルスクール	生徒	16	4
3	授業	沖縄県	10月20日(金)	渡嘉敷村立阿波連小学校	生徒	4	2
4	修学旅行	沖縄県	11月9日(水)	北大東村立北大東小学校	生徒	6	2
5	修学旅行	沖縄県	11月17日(金)	南大東村立南大東小学校	生徒	13	4
6	修学旅行	沖縄県	1月8日(木)	国頭村奥間小学校	生徒	13	4
合計						52	16

「沖縄の歴史を知る10分ガイド」実施団体

回数	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	スタッフ数
1	一般旅行	北海道	4月1日(土)	阪急交通社	一般	56	1
2	一般旅行	北海道	4月5日(水)	阪急交通社	一般	31	1
3	一般旅行	北海道	4月7日(金)	阪急交通社	一般	55	1
4	一般旅行	北海道	4月12日(水)	阪急交通社	一般	91	1
5	一般旅行	北海道	4月13日(木)	阪急交通社	一般	27	1
6	一般旅行	北海道	4月19日(水)	阪急交通社	一般	30	1
7	一般旅行	北海道	4月20日(木)	阪急交通社	一般	30	1
8	一般旅行	北海道	4月22日(土)	阪急交通社	一般	29	1
9	一般旅行	北海道	5月13日(土)	阪急交通社	一般	58	1
10	一般旅行	北海道	5月26日(金)	阪急交通社	一般	30	1
11	一般旅行	北海道	5月30日(火)	阪急交通社	一般	20	1
12	一般旅行	北海道	6月8日(木)	阪急交通社	一般	32	1
13	一般旅行	北海道	6月20日(火)	阪急交通社	一般	31	1
14	一般旅行	北海道	7月12日(水)	阪急交通社	一般	28	2
15	修学旅行	東京	9月17日(日)	東京家政大学付属女子中学校	学生	76	1
16	学校授業	沖縄	10月31日(火)	昭和薬科大学付属高等学校	学生	201	1
17	研修旅行	東京	11月10日(金)	能美防災株式会社	一般	16	2
18	修学旅行	島根	11月16日(木)	邑南町立瑞穂中学校	学生	35	1
19	一般旅行	愛知	11月19日(日)	三日月会	一般	13	1
20	研修旅行	沖縄	11月25日(木)	総合包装株式会社	一般	42	1
21	修学旅行	兵庫	11月28日(火)	尼崎市立尼崎高等学校	学生	84	1
22	修学旅行	兵庫	11月29日(水)	尼崎市立尼崎高等学校	学生	127	1
23	修学旅行	兵庫	11月29日(水)	尼崎市立尼崎高等学校	学生	128	1
24	学校授業	沖縄	1月31日(水)	沖縄県立水産高校	学生	18	2
25	一般旅行	海外	3月13日(水)	東華商事株式会社	一般	60	2
26	学校授業	沖縄	3月19日(火)	浦添商業高校	学生	60	2
合計						1408	31



## 海星小学校

日時：6月2日（金）15：10～16：50  
対象：海星小学校 6年生14名 引率3名 計17名  
内容：博物館ボランティア2名 職員2名（計4名）



## オキナワインターナショナルスクール

日時：6月16日（金）9：45～11：00  
対象：オキナワインターナショナルスクール 1年生16名 引率2名 計16名  
内容：博物館ボランティア4名 職員2名（計6名）



渡嘉敷村阿波連小学校

日時：10月20日（金）13：30～14：30

対象：渡嘉敷村阿波連小学校 3年生4名 引率1名 計5名

内容：博物館ボランティア2名 職員1名（計3名）



北大東村立北大東小学校

日時：11月9日（木）9：00～10：00

対象：北大東村立北大東小学校 5年生5名 6年生1名 引率4名 計10名

内容：博物館班ボランティア2名 職員1名（計3名）



南大東村立南大東小学校

日時：11月17日（金）9：00～10：00

対象：南大東村立南大東小学校 6年生13名 引率3名 計16名

内容：博物館ボランティア2名 職員1名（計3名）



国頭村立奥間小学校

日時：1月18日（木）13：00～14：00

対象：国頭村立奥間小学校 6年生13名 引率4名 添乗員1名 計18名

内容：博物館ボランティア2名 職員1名（計3名）



## 少人校ガイド ○○○立 ○○小学校(案)

日時 2023/○月/○日(○) 13:00～14:00 児童13名  
6名×2グループ

<b>《ポイント》</b>	①沖縄の歴史・文化について ②昔の人々の衣食住について学びたい
---------------	------------------------------------

		13時													14時													
		0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40						
1班 児童6名 ポラン ティア2	博物館・美術館・トイレ休憩 オリエンテーション・移動	民俗・歴史・自然史 (25分)							休憩5分	自由見学・ふれあい体験室 (25分)					エントランス集合・解散	/												
		10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	10	15		20	25	30	35	40								
2班 児童7名 ポラン ティア2		自由見学・ふれあい体験室 (25分)							休憩5分	民俗・歴史・自然史 (25分)						/												
		10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10		15	20	25	30	35	40							

**【解説・活動内容について】**  
 沖縄の歴史文化について  
 民俗部門展示での解説を多めの時間を配慮し、総合展示室ガイドほかのガイドも盛り込みます。

## 5 特別展・企画展関連事業

### (1) 企画展「海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り」

会 期：2023年9月22日（金）～2023年11月19日（日）

場 所：特別展示室1、企画展示室

主 催：沖縄県立博物館・美術館



#### ①文化講座

演 題：「倭寇凶巻を読む」

実施日：2023年9月30日（土）14:00～16:00

講 師：須田 牧子（東京大学史料編纂所 准教授）

場 所：講堂

参加者：120名（定員200名）

#### ②シンポジウム

演 題：「琉球の海 倭寇の海」

実施日：2023年9月30日（土）13:30～17:00

登壇者：荒木 和憲（九州大学大学院人文科学研究院）

黒嶋 敏（東京大学史料編纂所）

池谷 初恵（伊豆の国市教育委員会）

村木 二郎（国立歴史民俗博物館）

場 所：講堂

参加者：193名（定員200名）



#### ③学芸員講座

演 題：「倭寇関連の史跡を読み解く ―企画展『琉球と倭寇のもの語り』開催に向けて―」

実施日：2023年9月2日（土）14:00～16:00

講 師：山本 正昭（考古担当）

場 所：当館博物館講座室

参加者：80名（定員80名）

#### ④ワークショップ1

タイトル：「交易で使われた『世高通宝』を作ってみよう」

実施日：2023年10月22日（日）10:00～11:30

講 師：山本 正昭（考古担当）

場 所：博物館実習室

参加者：12名（定員12名）

⑤ワークショップ2

タイトル:「お香を体験しよう」

実施日:2023年10月22日(日)13:30~15:00

講師:伊禮 拓郎(美術工芸担当)

場所:博物館実習室

参加者:15名(定員16名)

⑥企画担当学芸員による展示解説会

実施日:9月22日(日)18:00~19:30(参加者15名)

11月18日(土)18:00~19:30(参加者15名)

11月19日(日)15:00~16:30(参加者30名)

場所:特別展示室1、企画展示室

講師:山本 正昭(考古担当学芸員)

(2) 特別展「海を越える人々(後期) 旧石器時代の人類 ―海を越えた最初の人々―

会期:2023年12月12日(火)~2024年2月12日(月)

場所:特別展示室1, 特別展示室2, 企画展示室

主催:沖縄県立博物館・美術館

①文化講座

演題:「旧石器時代の人類」展 文化講座1

「骨学セミナー沖縄版」

実施日:2023年12月17日(土)14:00~16:30

講師:奈良 貴史(新潟医療福祉大学准教授)

佐藤 孝雄(早稲田大学教授)

澤田 純明(新潟医療福祉大学准教授)

場所:講堂

参加者:150名(定員200名)



②シンポジウム

演題:『『新しい』港川人の時代』

実施日:2023年9月30日(土)14:00~17:00

講師:海部 陽介(東京大学総合研究博物館 教授)

藤田 祐樹(国立科学博物館 研究主幹)

水野 文月(東京大学総合研究博物館 教授)

場所:講堂

参加者:182名(定員200名)



③旧石器時代の人類」展 関連催事 映画『スギメ』上映会

日 時：2024年1月20日（日）10：00～12:00

会 場：講堂

参加者：60人

内 容：「旧石器時代の人類」展で展示を行った、丸木舟「スギメ」の実験航海の様子を記録した長編ドキュメンタリー映画『スギメ』の上映を行った。上映後にはプロジェクトリーダーを務めた海部陽介氏への質問会を行った。



④記念イベント「スギメに乗ってみよう！」

日 時：12:00～12:30、17:15～17:45

会 場：講堂

参加者：各回20名

内 容：上映会、シンポジウムに参加した方の中から抽選で20名に、「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」で実際に使用された「スギメ」（当館エントランスホールにて展示）に乗り、記念撮影をしていただくイベントを開催した。



⑤学芸員講座

演 題：『旧石器時代の人類』展をもっと楽しむ！

実施日：2024年2月10日（土）14:00～16:00

講 師：澤浦 亮平（人類担当学芸員）

場 所：博物館講座室

参加者：72名（定員80名）

⑥体験学習教室1

タイトル：「お菓子を作りながら旧石器時代を学んで食べよう！」

実施日：2023年12月23日（土）14:00～16:30

講 師：下島 綾美（おかし作り考古学者）

場 所：博物館実習室

参加者：8名（定員8名）

⑦体験学習教室 2

タイトル：「体験実食学習 サキタリ洞の味」

実施日：2024年1月7日（日）14:00～16:30

講師：澤浦 亮平（人類担当学芸員）

場 所：博物館実習室

参加者：9名（定員10名）



## 6 常設展に関する取組み

### (1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、約17,600枚（日本語版15,000枚、英語版2,600枚）を配布した。

### (2) 「沖縄2億年の歴史を1時間で旅するシート」

沖縄の歴史を短時間で伝えることを目的とした本シートは、今年度約6,000枚を配布した。観光客や県内のお客様、さらには、修学旅行生にも好評だった。

### (3) 博物館常設展示室ワークシート

常設展示室内で学芸員が特に見てほしい資料を紹介するため作成したワークシートは、今年度は新たに1種類増え、全9種類約10,000枚を配布することができた。今年度は、体裁を整えることを意識し、フォントもユニバーサルデザインフォントを使用した。次年度は、これまで作成したワークシートを今一度見直し、さらに見やすくわかりやすいシートに整える。

- 内 容：①「アタクにアタック」(生物①)  
②「飛べないとりのひみつ」(生物②)  
③「港川人のひみつ」(人類①)  
④「道具のひみつ」(考古①)  
⑤「よく見てサークルホールの化石」(地学①)  
⑥「石と友達になろう 石灰岩編」(地学②)  
⑦「沖縄の魔除けをさがせ！」(民俗①)  
⑧「三線のひみつ」(美術工芸①)  
⑨「銅鐘 DOUSHO コレクション」(歴史①)



「銅鐘 DOUSHO コレクション」

(歴史①)

## 7 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

### ○体験学習教室

	発行日	掲載紙	掲載欄	内容
1	2月2日(金)	琉球新報	社説・声	ティータイム「サキタリ洞の味」

### ○第14回移動展in国頭村

	発行日	掲載紙	掲載欄	内容
1	2月25日(日)	琉球新報	市町村面	50年前の収録民話上映 国頭で初の県博移動展

## 8 印刷物一覧

回数	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座チラシ（9回）	A 4（片面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック 館内手刷り	4,150
2	学芸員講座チラシ（13回）	A 4（片面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック 館内手刷り	6,500
3	体験学習教室（4回）*民話上映会含む	A 4（片面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,100
4	「夏休み！子どもフェスタ2023」チラシ	A 4（両面カラー）	安慶名 正浩	(株) グラフィック	2,500
5	「第14回 移動展in国頭村」チラシ	A 4（両面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,500
6	これだけは見逃すな！（日本語）	A 4（両面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	20,000
7	これだけは見逃すな！（英語版）	A 3（両面カラー）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	4,500
8	博物館常設展ワークシート（生物1） 「12匹のアタク（オキナワキノボリトカゲ）をさがせ！」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,500
9	博物館常設展ワークシート（生物2） 「日本で唯一 飛べない鳥ヤンバルクイナのひみつ」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,500
10	博物館常設展ワークシート（人類1） 「港川人を解析せよ」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,500
11	博物館常設展ワークシート（地学2） 「石と友達になろう」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,000
12	博物館常設展ワークシート（考古1） 「道具を探せ」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,000
13	博物館常設展ワークシート（美術工芸1） 「三線のひみつ」	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,500
14	「旧石器時代の人類」展ワークシート（おとな版）	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	1,000
15	「旧石器時代の人類」展ワークシート（子ども版）	A 4 （両面カラー・二つ折り）	沖縄美ら島財団	(株) グラフィック	650

令和5年度  
沖縄県立博物館・美術館  
**博物館教育普及活動**  
2024（令和6）年3月

---

発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 Tel (098) 941-8200（代表） Fax (098) 941-2392
編集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団
印刷	企画印刷ハーツ